

中医執業医師資格試験要領 (2020年版)

(規定学歴を有する執業医師、
師承または専門的な知識を有す
る執業医師を含む)。

説明

一. 指導思想

マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観、習近平による新時代の中国の特色ある社会主義思想を指針として持ち続け、習近平総書記の人材観の指導の下、中医師が臨床に従事できる質を維持し、中医師人材チームの構築に貢献し、中医薬事業の発展と中国の健全な建設をさらに促進する。

二. 試験の性質

「中華人民共和国執業医師法」では、国が医師の資格試験制度を実施すると規定されている。医師資格試験は、臨床執業医師に対する参入許可試験であり、申請した有医師資格者が、必要な専門知識と技術を有しているかどうかを評価する試験である。医師資格試験に合格すると、執業医師資格または執業助理医師資格を取得できる。医師資格を取得した者は、登録申請し、医療、予防、保健機関において登録された執業地、執業種別、執業範囲に基づいて医療、予防および保健業務に従事することができる。

三. 試験の目的

試験を通じて、社会主義の現代化の推進と中医薬事業の継承発展に必要な中医学臨床に適した有能な人材を選抜する。試験参加者には以下が求められる。中医薬の基礎理論、基礎知識、基礎技術を体系的に習得していること。人文社会科学、自然科学、中国伝統文化などの知識を一定程度習得し、関連する専門知識の有機的な統合と応用ができること。中医学的思考能力、優れた実践能力、中医学文化の継承能力を有し、中医学における臨床診療に従事できること。良好な職業倫理を有していること。高い学習能力、コミュニケーション能力、協調力があること。革新精神、批判的思考を持ち、知識、能力、資質、品性、社会的責任を備えた有資格の人材となり、中医学の全面的な協調発展を図ること。

四. 試験の要件

「中華人民共和国執業医師法」、「中華人民共和国中医薬法」、「医師資格試験暫行弁法」、および国家衛生健康委員会が規定する専門性、学歴、職歴に加え、中医学臨床および医師の職能に対する要求と結合し、以下の知識と能力を備えているべきである。

(一) 基本的な資質

1. 中国共産党の指導を支持し、正しい世界観、人生観、価値観を備え、愛国主義と集団主義精神を有し、法律を遵守し、誠実に約束を守り、人民に忠実であり、人類の健康のために闘うことを厭わない。

2. 「大医精誠」を職業理念とし、生命を尊重し、患者を思いやり、中医学事業を心から愛し、中医薬の理論、方法、手段を積極的に運用して、病気の予防、痛みや苦痛の除去、患者への配慮を職業責任とする。

3. 職業倫理を遵守し、患者のプライバシーを守り、患者とその家族の信念と人格を尊重する。

4. 法律に従って医療を実践するという概念を持ち、法律を利用して患者と自分自身の正当な権利と利益を守り、医療資源を公正かつ合理的に利用する。

5. 中医学的思考を実践的な臨床問題に応用し、正確に観察できる能力、論理的に思考する能力、および経験的知識を継続的に習得する能力を備えている。

6. 良好な精神力、同僚や他の医療従事者への敬意、チームスピリットと対人コミュニケーション能力を備えている。

7. 未病治療および安全で効果的な診療に対する高い意識を備えている。

8. 科学的な視点と方法論、事実に基づいて問題を処理する仕事への態度を備えている。

9. 中医学とその関連分野の学術的発展を理解し、革新能力を備えている。

10. 生涯学習と継続的な自己研鑽能力を備えている。

(二) 基礎理論と基礎知識

1. 中医学の体系的な基礎理論と基礎知識を習得し、中医学のスタンダードな理論を習得している。

2. 一般的な各種の疾患、多発性疾患における中医薬での臨床診療の基礎知識を習得している。

3. 西洋医学の基礎、臨床医学の必須知識と臨床における一般的な疾患、多発性疾患の診断と処置の知識を習得している。

4. 臨床において適切な薬剤使用の原則を習得している。

5. 一般的な中医学と西洋医学の救急処置の基礎知識を習得している。

6. 医療倫理と人文・社会科学の基本原則と知識を習得している。

7. 中医学における養生、健康維持、リハビリテーションの基礎知識を習得している。

8. 予防医学について熟知し、感染症の発生や公衆衛生上の緊急事態の報告プロセスを習得し、一般的な感染症の予防と治療の原則に精通している。

9. 人文・社会科学、自然科学、中国の伝統文化について一定程度の知識を備えている。

(三) 基本的な技能

1. 完全かつ体系的で標準化された病歴聴取能力を備えている。

2. 体系的かつ標準化された方法で身体検査を実施する能力を備えている。

3. 標準的なメディカルライティングとプレゼンテーションを行う能力を備えている。

4. 中医学的思考を用いて、中医学的診断を行う、また理・法・方・薬、鍼灸、推拿などの方法を応用し、一般的な疾患や多発性疾患に対し、弁証論治（病因や症状を分析して治療法を判断する）の能力を備えている。

5. 一般的な疾患、多発性疾患の初期診断と処置を行う能力を備えている。

6. 診療に対する安全意識、急性・危篤・重症患者に対する初期判断と現場における処置の能力を備えている。

7. 中医学と西洋医学の基本的な診療技術、一般的な補助検査の選択・使用および結果の判断・分析能力を備えている。

8. 患者とコミュニケーションをとり、健康的なライフスタイル、疾病予防などの知識について患者や

一般の人々を教育する能力を備えている。

9. 情報管理能力を備え、現代の情報技術を利用して医学上の問題を研究し、新しい知識を習得することができる。古典の中医学書を理解する能力、および臨床症例や関連文献を収集・整理・分析する能力を備えている。

五. 試験範囲

(一) 実践技能試験

このパートでは主に、医学人文の素養、カルテ分析、中医学の基本診療、身体検査、西洋医学の基本診療、病歴聴取、臨床における質問と答え、補助検査結果の解釈と分析など、受験者が学んだ知識と習得した技能の総合的な理解と分析、実地的な応用診療能力について試験を行い、同時にその心理的素質および応用能力を審査する。

(二) 医学の総合試験

このパートでは、主に受験者が学んだ理論や知識の記憶、理解、総合的な応用力を問う。その内容は「中医学基礎」「中医学古典」「中医学臨床」「西洋医学総合」「医学人文」の5分野に分かれている。

中医学基礎：中医学の基礎理論、中医学診断学、中薬学、処方学における、実務に必要な基礎知識と理論。

中医学古典：黄帝内経、傷寒論、金匱要略、温病学における、実務に必要な理論と臨床の基礎。

中医学臨床：中医内科学、中医外科学、中医婦人科学、中医小児科学、鍼灸学における、実務に必要な専門理論と知識、それに関連する基礎知識と医学人文の知識など。

西洋医学総合：診断学基礎、内科学（師承またはすでに専門技術を有している者には試験を行わない）、感染症学における、主に西洋医学の基礎知識、臨床における専門知識と感染症の知識など。

医学人文：主に臨床において備えるべき法令や倫理的知識を審査する。医学倫理学、衛生法規などの科目を含む。

実践技能試験要領

一. 医師としての素養

- (一) 医師としての徳性と気風
- (二) コミュニケーション能力
- (三) ヒューマンケア

二. 中医学的思考と診療能力

- (一) 中医学の四診による情報収集
- (二) 診断と鑑別診断
- (三) 弁証論治
- (四) 予防と保養・看護

三. 中医学の診療技能

- (一) 中医学における四診
- (二) 鍼灸で常用する腧穴

1. 手の太陰肺経の腧穴：尺沢、孔最、列欠、魚際、少商
2. 手の陽明大腸経の腧穴：商陽、合谷、手三里、曲池、肩髃、迎香
3. 足の陽明胃経の腧穴：地倉、下関、頭維、天枢、梁丘、犢鼻、足三里、上巨虚、条口、豊隆、内庭
4. 手の太陰脾経の腧穴：公孫、三陰交、地機、陰陵泉、血海、大横
5. 手の少陰心経の腧穴：通里、神門、少府
6. 手の太陽小腸経の腧穴：後溪、養老、天宗、聴宮
7. 足の太陽膀胱経の腧穴：攢竹、天柱、肺兪、膈兪、胃兪、腎兪、大腸兪、次髎、委中、膏肓、秩边、承山、昆侖、申脈、至陰
8. 足の少陰腎経の腧穴：湧泉、太溪、照海、復溜
9. 手の厥陰心包経の腧穴：郄門、内関、大陵、中衝
10. 手の少陽三焦経の腧穴：中渚、外関、支溝、翳風
11. 足の少陽胆経の腧穴：風池、肩井、環跳、陽陵泉、懸鐘、丘墟
12. 足の厥陰肝経の腧穴：太衝、蠡溝、期門
13. 督脈の腧穴：腰陽関、命門、大椎、百会、神庭、水溝、印堂

14. 任脈の腧穴：中極、関元、気海、中脘、臍中、天突

15. 常用する経外奇穴（医学の經典にない不思議なツボ）：四神聡、太陽、定喘、夾脊、腰痛点、十宣

（三）鍼灸治療技術

1. 毫針法

2. 灸法

3. その他の治療法：三棱針法、皮膚針法、耳穴圧丸法

4. 鍼灸治療で発生した異常状況に対する処理：暈針（めまい・動悸・嘔吐）、滯針（針が鈍く動かない）、彎針（針の曲がり）、断針（体内で折れる）、血腫、皮膚の火傷と水疱、内臓の損傷、脳脊髄の損傷、末梢神経の損傷

5. 一般的な急性病証に対する鍼灸治療

（1）偏頭痛

（10）下痢

（2）めまい

（11）排尿障害

（3）寝違え

（12）月経痛

（4）中風（脳溢血）

（13）ねんざ

（5）動悸

（14）歯痛

（6）喘息

（15）卒倒

（7）嘔吐

（16）高熱

（8）胃痛

（17）痙攣

（9）腹痛

（18）内臓の激しい痛み

（四）推拿技術

1. 撥手法

5. 拿法（つかむ）

2. 揉法（もむ）

6. 抖法（ふるわす）

3. 按法（おさえもむ）

7. 捏脊法（脊椎の両側の肉をつまむ）

4. 推法（おす）

8. 搓法（こする）

（五）カッピング技術

四．西洋医学の臨床技能

（一）身体検査

1. 全身の状態検査

バイタルサイン、発育と体型、栄養状態、意識状態、表情、体位、歩行

2. 皮膚検査

3. 表在リンパ節検査

4. 頭部検査

（1）眼の検査：まぶた、結膜、強膜、瞳孔（大きさ、対光反射、輻輳反射）、眼球運動

（2）咽頭部、扁桃検査

（3）副鼻腔検査

5. 頸部の検査（血管、甲状腺、気管）

6. 胸郭、胸壁、乳房の検査

7. 肺と胸膜の検査

（1）視診（呼吸運動、呼吸数、呼吸リズム、呼吸深度）

- (2) 触診（胸郭拡張度、声の震え、胸膜摩擦感）
- (3) 聴診（打診法、打診音、肺境界打診）
- (4) 聴診（聴診の方法、呼吸音、ラ音、胸膜摩擦音、聴覚音声）

8. 心臓検査

- (1) 視診（前胸部隆起、心尖拍動、前胸部異常拍動）
- (2) 触診（心尖拍動、振戦、心膜摩擦感）
- (3) 聴診（相対的心濁音界）
- (4) 聴診（心臓弁膜の聴診部位、聴診方法、心拍数、心拍リズム、心音、余分な心音、心雑音、心膜摩擦音）

9. 血管検査：脈拍、血管雑音、末梢血管疾患

10. 腹部検査

- (1) 視診（腹部形状、呼吸運動、腹壁静脈、胃腸型、蠕動波）
- (2) 触診（腹壁の張り、圧痛、反跳痛、腹部腫瘤、肝臓・脾臓の触診、マーフィー徴候、遊離腹腔内液）
- (3) 聴診（腹部打診音、肝濁音界、濁音界の移動、腎部打診痛、膀胱打診）
- (4) 聴診（腸音、振盪音）

11. 脊柱と四肢の検査

- (1) 脊柱（彎曲度、可動性、圧痛、打診痛）
- (2) 四肢関節

12. 神経系の検査

- (1) 筋力、筋張力
- (2) 協調運動
- (3) 神経反射（表在反射、深部反射、病的反射）
- (4) 髄膜刺激症状
- (5) ラセーグ徴候

(二) 基本診療

- 1. 外科手術用の手指の消毒
- 2. 滅菌手袋の着用
- 3. 手術衣の着脱
- 4. 手術部位の皮膚消毒
- 5. 隔離衣の着脱
- 6. 外傷に対する現場での止血法
- 7. 創傷（切開）ドレッシング
- 8. 脊柱損傷の現場での搬送
- 9. 現場での長骨骨折の応急固定
- 10. 心肺蘇生法
- 11. 空気袋-マスク型簡易呼吸器の使用
- 12. 導尿術（男性、女性）
- 13. 胸腔穿刺術

14. 腹腔穿刺術

(三) 補助検査の結果分析と解釈

1. 心電図

- | | |
|---------------|--------------|
| (1) 正常心電図 | (6) 発作性上室性頻拍 |
| (2) 心房および心室肥大 | (7) 心室頻拍 |
| (3) 心筋虚血 | (8) 心房細動 |
| (4) 急性心筋梗塞 | (9) 心室細動 |
| (5) 頻脈 | (10) 房室ブロック |

2. 普通レントゲン写真

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 通常胸部正面写真 | (6) 原発性肺がん |
| (2) 閉塞性肺気腫 | (7) 胃潰瘍 |
| (3) 気胸 | (8) 急性消化管穿孔 |
| (4) 胸水 | (9) 腸閉塞 |
| (5) 肺炎球菌による肺炎 | (10) 長骨骨折 |

3. CT画像診断

- | | |
|-------------|------------|
| (1) 原発性肺がん | (5) 脳梗塞 |
| (2) 急性肺炎 | (6) 脳出血 |
| (3) 急性硬膜外血腫 | (7) くも膜下出血 |
| (4) 急性硬膜下血腫 | |

4. 臨床検査

- | | |
|---|---|
| (1) 一般血液検査 | (9) 血清カリウム、ナトリウム、塩素、カルシウム |
| (2) 尿検査 | (10) 血清アミラーゼ |
| (3) 糞便検査 | (11) 血清心筋マーカー（心筋酵素、トロポニン） |
| (4) 肝機能（血清蛋白、アラニンアミノトランスフェラーゼ、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ、 γ -グルタミルトランスペプチダーゼ、ビリルビン） | (12) 血漿中B型脳性ナトリウム利尿ペプチド |
| (5) A型、B型、C型肝炎ウイルスマーカー | (13) 抗ストレプトリジン-O抗体 |
| (6) 腎機能（尿素窒素、クレアチニン、尿酸、クレアチニンクリアランス） | (14) リウマチ因子と抗核抗体 |
| (7) 血糖値、ブドウ糖負荷試験、糖化ヘモグロビン、血漿インスリン、Cペプチド測定 | (15) 漿膜腔液 |
| (8) 血清総コレステロール、トリグリセリド、HDLコレステロール、LDLコレステロール | (16) 動脈血ガス分析 |
| | (17) 一般的に使用される腫瘍マーカー（AFP、CEA、CA125） |
| | (18) 血中および尿中hCG |
| | (19) 甲状腺機能（FT ₃ 、FT ₄ 、TSH、甲状腺自己抗体） |

五. 中医学でよく見られる疾患

- | | |
|--------|--------|
| (一) 風邪 | (三) 哮喘 |
| (二) 咳 | (四) 喘証 |

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| (五) 肺結核 | (三十五) 癰 |
| (六) 肺脹 (肺気腫) | (三十六) 乳癰 |
| (七) 心悸 | (三十七) 湿瘡 |
| (八) 胸痺 | (三十八) 痔 |
| (九) 不眠 | (三十九) 瘰癧 |
| (十) てんかん | (四十) 排尿障害 |
| (十一) 胃痛 | (四十一) 虫垂炎 |
| (十二) 嘔吐 | (四十二) 不正性器出血 |
| (十三) 腹痛 | (四十三) 閉経 |
| (十四) 下痢 | (四十四) 月経痛 |
| (十五) 赤痢 | (四十五) 閉経前後の諸症状 |
| (十六) 便秘 | (四十六) 帯下病 |
| (十七) 脇痛 | (四十七) 胎漏、胎動不安 |
| (十八) 黄疸 | (四十八) 産褥熱 |
| (十九) 鼓腸 | (四十九) 不妊症 |
| (二十) 頭痛 | (五十) 癥瘕 (腹部のふくれあがり) |
| (二十一) めまい | (五十一) 肺炎咳喘息 |
| (二十二) 中風 (脳溢血) | (五十二) 小児下痢症 |
| (二十三) 震え | (五十三) 積滯 (消化管への食物の堆積) |
| (二十四) 浮腫 | (五十四) 鷺口瘡 |
| (二十五) 膀胱炎 | (五十五) 水痘 |
| (二十六) うつ病 | (五十六) おたふく風邪 |
| (二十七) 血証 (血行障害) | (五十七) 手足口病 |
| (二十八) 消渴 (糖尿病の症状の一つ) | (五十八) はしか |
| (二十九) 瘰癧 (首にできるこぶ) | (五十九) 猩紅熱 |
| (三十) 内傷 (身心の過労や不摂生から起こる症状)による発熱 | (六十) 紫斑 |
| (三十一) がん | (六十一) 橈骨下端の骨折 |
| (三十二) 痺証 (肢体や関節のしびれ・疼痛を生じる病証) | (六十二) 肩関節周囲炎 |
| (三十三) 痿証 (筋肉が萎えて動かなくなる) | (六十三) 頸椎症 |
| (三十四) 腰痛 | (六十四) 腰椎椎間板ヘルニア |

六. 西洋医学でよく見られる疾患

- | | |
|-----------------------|--------------|
| (一) 急性上気道感染症 | (七) 肺結核 |
| (二) 慢性気管支炎 | (八) 原発性気管支肺癌 |
| (三) 慢性閉塞性肺疾患 | (九) 慢性呼吸不全 |
| (四) 慢性肺性心疾患 | (十) 心臓衰弱 |
| (五) 気管支喘息 | (十一) 不整脈 |
| (六) 肺炎 (肺炎球菌、マイコプラズマ) | 1. 頻脈 |

- 2. 発作性上室性頻拍
- 3. 心室頻拍
- 4. 心房細動
- (十二) 原発性高血圧
- (十三) 冠動脈硬化性心疾患
- (十四) ウイルス性心筋炎
- (十五) 慢性胃炎
- (十六) 消化性潰瘍
- (十七) 胃がん
- (十八) 潰瘍性大腸炎
- (十九) 肝硬変
- (二十) 急性膵炎
- (二十一) 慢性糸球体腎炎
- (二十二) 尿路感染症
- (二十三) 慢性腎不全
- (二十四) 鉄欠乏性貧血
- (二十五) 再生不良性貧血
- (二十六) 原発性免疫性血小板減少症
- (二十七) 甲状腺機能亢進症
- (二十八) 甲状腺機能低下症
- (二十九) 糖尿病
- (三十) 脂質異常症
- (三十一) 高尿酸血症と痛風
- (三十二) 関節リウマチ
- (三十三) 脳梗塞
- (三十四) 脳出血
- (三十五) クモ膜下出血
- (三十六) ウイルス性肝炎
- (三十七) 乳腺房増殖
- (三十八) 急性虫垂炎
- (三十九) 腸閉塞
- (四十) 胆石症
- (四十一) 前立腺肥大症
- (四十二) 下肢の閉塞性動脈硬化症
- (四十三) 排卵障害による異常子宮出血
- (四十四) 絶経総合徴
- (四十五) 膣炎
- (四十六) 切迫流産
- (四十七) 子宮外妊娠
- (四十八) 産褥感染症
- (四十九) 小児肺炎
- (五十) 小児下痢性疾患
- (五十一) 腎臓病総合徴
- (五十二) アレルギー性紫斑病
- (五十三) 水痘
- (五十四) おたふく風邪
- (五十五) 手足口病

医学総合試験要領

一．中医学基礎

(一) 中医の基本理論

単元	細目	要点
第一単元 中医学の理論体系	一．中医学の概念と学問的属性	1. 中医学の概念
		2. 中医学の学問的属性
	二．中医学の理論体系の形成と発展	1. 中医学の理論体系の形成
		2. 中医学の理論体系の発展
	三．中医学の理論体系の主な特徴	1. 全体観
		2. 弁証論治
第二単元 精気学説	一．精気学説の概念	1. 精の概念
		2. 気 of 概念
		3. 精気 of 概念
	二．精気学説の基本的内容	1. 精気は宇宙の根源である
		2. 精気の移動と変化
		3. 精気は天地万物の仲介者である
4. 天地の精気が人間となる		
第三単元 陰陽学説	一．陰と陽の概念	1. 陰と陽の意味
		2. 物事の陰陽属性の絶対性と相対性
	二．陰陽学説の主な内容	1. 陰と陽の相反する制約
		2. 陰と陽は互根互用
		3. 陰と陽の交感互蔵
		4. 陰と陽の消長
		5. 陰と陽の転換
		6. 陰と陽のバランス

単元	細目	要点
第三単元 陰陽学説	三. 中医学における陰陽学説の応用	1. 組織構造と生理機能への応用
		2. 病理への応用
		3. 疾病診断への応用
		4. 疾病予防と治療への応用
第四単元 五行学説	一. 五行学説の概念	1. 五行の概念
		2. 五行の特徴と事物・現象の五行への分類
		3. 事物の五行属性の分類根拠と方法
	二. 五行学説の基本的な内容	1. 五行の相生相克
		2. 五行の制化
		3. 五行の相乗と相侮
		4. 五行の母子相及
	三. 中医学における五行学説の応用	1. 生理面への応用
		2. 病理面への応用
		3. 疾病診断面への応用
		4. 疾病治療面への応用
	第五単元 蔵象学説	蔵象学説
2. 蔵象学説形成の基礎		
3. 五臓、六腑、奇恒の腑の分類		
第六単元 五臓	一. 五臓の生理機能と特性	1. 心臓の生理機能と特性
		2. 肺の生理機能と特性
		3. 脾臓の生理機能と特性
		4. 肝臓の生理機能と特性
		5. 腎臓の生理機能と特性
		6. 命門（人体の二つの腎臓の間の部分）の概念と機能
	二. 五臓間の関係	1. 心臓と肺の関係
		2. 心臓と脾臓の関係
		3. 心臓と肝臓の関係
		4. 心臓と腎臓の関係
		5. 肺と脾臓の関係
		6. 肺と肝臓の関係
		7. 肺と腎臓の関係
		8. 肝と脾臓の関係
9. 肝臓と腎臓の関係		
10. 脾臓と腎臓の関係		

単元	細目	要点
第六単元 五臓	三. 五臓と五体、五感九竅、五志、五液と季節の関係	1. 五臓と五体の関係
		2. 五臓の外華
		3. 五臓と五感九竅の関係
		4. 五臓と五志、五神の関係
		5. 五臓と五液の関係
		6. 五臓と季節の関係
第七単元 六腑	一. 六腑の生理機能	1. 胆嚢の生理機能
		2. 胃の生理機能と生理的特性
		3. 小腸の生理機能
		4. 大腸の生理機能
		5. 膀胱の生理機能
		6. 三焦の概念と生理機能
	二. 五臓と六腑の関係	1. 心臓と小腸の関係
		2. 肺と大腸の関係
		3. 脾臓と胃の関係
		4. 肝臓と胆嚢の関係
5. 腎臓と膀胱の関係		
第八単元 奇恒の腑	一. 脳	1. 脳の生理機能
		2. 脳と臓腑の精気の関係
	二. 子宮	1. 子宮の生理機能
		2. 子宮と臓腑経絡の関係
第九単元 精、気、血、津液、神	一. 精	1. 人体の精の概念
		2. 人体の精の生成
		3. 人体の精の機能
		4. 人体の精の分類
	二. 気	1. 人体の気概念
		2. 人体の気の生成
		3. 人体の気の機能
		4. 人体の気の分類
		5. 人体の気の気化
	三. 血	1. 血の基本概念
		2. 血の生成
		3. 血の流れ
		4. 血の機能

単元	細目	要点
第九単元 精、気、血、津液、神	四. 津液	1. 津液の基本概念
		2. 津液の生成、移動、排泄
		3. 津液の機能
	五. 精神	1. 人体の精神の基本概念
		2. 人体の精神の生成
		3. 人体の精神の分類
		4. 人体の精神の役割
	六. 精、気、血、津液、精神の間の関係	1. 気と血の関係
		2. 気と津液の関係
		3. 精、気、血、津液の間の関係
		4. 精、気、精神の関係
	第十単元 経絡	一. 経絡学説の概要
2. 経絡系統の構成		
二. 十二経脈		1. 十二経脈の走行法則
		2. 十二経脈の分岐法則
		3. 十二経脈の分布法則
		4. 十二経脈の表裏関係
		5. 十二経脈の流注順序
		6. 十二経脈の循環における重要な部位と分岐点
三. 奇経八脈		1. 奇経八脈の意味およびその循環と機能的特徴
		2. 督脈、任脈、衝脈、帯脈、蹻脈、維脈の循環の特徴と基本機能
四. 経別、別絡、経筋、皮部		1. 経別の概念、特徴、生理機能
		2. 別絡の概念、特徴、生理機能
		3. 経筋の概念、特徴、生理機能
		4. 皮部の概念と応用
五. 経絡の生理機能と経絡学説の応用		1. 経絡の生理機能
		2. 経絡学説の応用
第十一単元 体質		一. 体質の概念と構成
	2. 体質の構成	
	3. 体質の特徴	
	二. 体質の生理学的基礎	1. 体質と臓腑、精、気、血、津液の関係
		2. 体質に影響を与える要素
	三. 体質学説の応用	1. 体質と病因・病態
		2. 体質と診療
		3. 体質と養生

単元	細目	要点	
第十二単元 病因	一. 六淫	1. 六淫の概念	
		2. 六淫に共通する致病的特徴	
		3. 六淫それぞれの特性と致病的特徴	
		(1) 風邪の特性と致病的特徴	
		(2) 寒邪の特性と致病的特徴	
		(3) 暑邪の特性と致病的特徴	
		(4) 湿邪の特性と致病的特徴	
		(5) 燥邪の特性と致病的特徴	
	二. 疔氣 (伝染病の気)	1. 疔氣の概念	
		2. 疔氣の致病的特徴	
	三. 七情内傷 (感情と内臓器官障害)	1. 情志内傷 (情緒と内臓気管障害) の基本概念	
		2. 七情と臓腑精気の関係	
		3. 情志内傷の致病的特徴	
	四. 食生活の乱れ	1. 飲食が規則正しくない	
		2. 飲食の好み偏っている	
		3. 飲食環境が清潔でない	
	五. 労働と休息のバランスが極度に悪い	1. 過度の疲労	
		2. 過度の快適さ	
	六. 痰飲	1. 痰飲の概念	
		2. 痰飲の形成	
		3. 痰飲の病原的特性	
	七. 瘀血	1. 瘀血の概念	
		2. 瘀血の形成	
		3. 瘀血の致病的特徴	
		4. 瘀血の致病症状の特徴	
	第十三単元 発病	一. 発病の基本原理	1. 正気と邪気概念
			2. 正気不足は発病の基礎
			3. 邪気は発病の重要な条件
4. 邪正相争と発病			
二. 発病に影響する主な要素		1. 環境と発病	
		2. 体質と発病	
		3. 精神状態と発病	

単元	細目	要点
第十三単元 発病	三. 発病の種類	1. 感邪即発 (邪により即発)
		2. 徐発
		3. 伏而後発 (潜伏した後の発症)
		4. 継発
		5. 合病と併病
		6. 再発
第十四単元 病態	一. 邪正盛衰 (邪気 (疾病の原因) と正気 (疾病に対する抵抗力の総称) の強さ)	1. 邪正盛衰と虚実変化 (虚証と実証の変化)
		2. 邪正盛衰と疾病転帰
	二. 陰陽失調	1. 陰陽偏盛
		2. 陰陽偏衰
		3. 陰陽互損
		4. 陰陽格拒
		5. 陰陽亡失
		6. 陰陽転化
	三. 精、気、血の異常	1. 精の異常
		2. 気の異常
		3. 血の異常
		4. 精、気、血の関係の異常
	四. 津液の代謝異常	1. 津液不足
		2. 津液の移動、排泄障害
		3. 津液と気、血の関係の異常
	五. 内生「五邪」	1. 内生「五邪」の概念
		2. 風気内動
		3. 寒從中生
		4. 湿濁内生
		5. 津傷化燥
		6. 火熱内生
	六. 疾病の伝染	1. 失敗伝染の形式
		2. 病性の転化
	第十五単元 予防治療の原則	一. 予防
2. 未病予防		
3. 既病の悪化防止		

単元	細目	要点
第十五単元 予防治療の原則	二. 治療原則	1. 治療原則、治療方法の基本概念
		2. 正治と反治
		3. 対症療法と根本原因を治療する
		4. 病いに対する抵抗力を高め、疾患の元を取り除く
		5. 陰陽の調整
		6. 精、気、血、津液を整える
		7. 三因制宜
第十六単元 養生と寿夭	一. 養生	1. 養生の基本概念
		2. 養生の原則と方法
	二. 生命の寿夭	1. 生命の寿夭法則
		2. 寿夭を決定づける基本要素

(二) 中医学の診断学

単元	細目	要点
第一単元 序論	序論	1. 中医学診断の基本原理
		2. 中医学診断の基本原則
第二単元 望診	一. 望神（意識を見る）	1. 得神、失神、少神、偽神の一般的な臨床症状とその意味
		2. 神乱の一般的な臨床症状とその意味
	二. 望面色（顔の色を見る）	1. 正常な色と病的な色の分類、臨床症状とその意味
		2. 五色主病の臨床症状とその意味
		3. 顔色診断の意味
	三. 望形態（形態を見る）	1. 身体の強い弱い、太っている痩せているという臨床症状とその意味
		2. 姿勢異常（静的・動的姿勢、異常動作）の臨床症状とその意味
	四. 頭部と顔の五官を見る	1. 頭部、髪を見ることの内容と臨床的意味
		2. 顔の腫れ、耳下腺の腫れ、顔面神経麻痺の臨床症状とその意味
		3. 目的の臓腑の属性、目の色、目の形、目の様子を見る主な内容とその臨床的意味
		4. 口、唇、歯、歯茎を見る主な内容とその臨床的意味
		5. 喉を見る主な内容とその臨床的意味
	五. 体と手足を見る	1. 頸部を見る主な内容とその臨床的意味
		2. 手足を見る主な内容とその臨床的意味
	六. 皮膚を見る	1. 皮膚の色の内容とその臨床的意味
		2. 発疹を見る内容と臨床的意味
	七. 排出物を見る	1. 痰と鼻水を見る内容と臨床的意味
		2. 嘔吐物を見る内容と臨床的意味を見る。
	八. 小児の人差し指の絡脈を見る。	1. 子供の人差し指の静脈を見る方法とその正常症状
		2. 小児の人差し指の絡脈の病理的変化の臨床症状とその意味
第三単元 望舌（視覚による診察）	一. 舌診の原理と方法	1. 舌診の原則
		2. 舌診の方法と注意事項
	二. 正常な舌の状態	正常な舌の状態の特徴と臨床的意味
	三. 舌の質を見る	1. 舌の状態の変化（栄舌・枯舌）の特徴と臨床的意味
		2. 舌の色の変化（淡い白、淡い赤、赤、深紅、青紫）の特徴と臨床的意味
3. 舌の形状の変化（老いている/若い、厚みがある/痩せている、穴、亀裂、歯型など）の特徴と臨床的意味		
	4. 舌の形態の変化（硬い、筋肉が衰えて柔らかくなる、震え、曲がり、弛緩して伸びる、短くなる）の特徴と臨床的意味	

単元	細目	要点	
第三単元 望舌（視覚による診察）	四. 舌苔を見る	1. 舌苔の質の変化（厚い/薄い、湿っている/乾いている、腐敗している/脂ぎっている、剥がれている、真苔/偽苔）の特徴と臨床的意味	
		2. 苔の色の变化（白、黄、薄い黒）の特徴と臨床的意味	
	五. 舌下絡脈	舌下絡脈の変化の特徴と臨床的意味	
	六. 舌の状態の総合分析	1. 舌質と舌苔の総合的診察	
		2. 舌診の臨床的意味	
	第四単元 聞診	一. 声を聴く	1. 嗄声と発声障害の臨床症状とその意味
2. うわごと、言葉の繰り返し、独り言、間違言い間違い、暴言、どもりの臨床症状とその意味			
3. 咳、喘、哮の臨床症状とその意味			
4. 短気、少気の臨床症状とその意味			
5. 嘔吐、しゃっくり、げっぷの臨床症状とその意味			
6. ため息の臨床症状とその意味			
二. 臭い		1. 呼気や排泄物の異常な臭いの臨床的意味	
		2. 病室の異常な臭いの臨床的意味	
第五単元 問診		一. 問診の内容	1. 主訴の概念と意味
			2. 「十問歌」
	二. 暑さと寒さを尋ねる	1. 悪寒発熱の臨床症状とその意味	
		2. 但寒不熱（悪寒はあるが発熱はない）の臨床症状とその意味	
		3. 但熱不寒（発熱はあるが悪寒はない）（高熱、ほてり、微熱）の臨床症状とその意味	
		4. 寒熱往来（悪寒と発熱が交互に起きる）の臨床症状とその意味	
	三. 汗について尋ねる	1. 特異な発汗（日中の汗、寝汗、絶汗（重体時の汗）、戦汗（戦慄時の汗））の臨床症状とその意味	
		2. 黄汗の臨床症状とその意味	
		3. 局所発汗（頭部発汗、半身発汗、手足の発汗、生殖器周囲の発汗）の臨床症状とその意味	
	四. 疼痛について尋ねる	1. 疼痛の特性とその臨床的意味	
		2. 頭痛、胸痛、脇痛、胃痛、腹痛、腰痛について尋ねる際の要点と臨床的意味	
	五. 頭部、胴体、胸部、腹部について尋ねる	1. めまい、胸部圧迫感、心悸、胃の膨満感、腹部膨満感、しびれ、疲労感を尋ねる際の要点と臨床的意味	
		2. 体が重い、体がかゆい際の要点と臨床的意味	

単元	細目	要点
第五単元 問診	六. 耳と目について尋ねる	1. 耳鳴と難聴の臨床症状とその意味
		2. 目のくらみの臨床症状とその意味
		3. 目昏（かすみ目）と雀盲（夜盲症）の臨床症状とその意味
	七. 睡眠について尋ねる	1. 不眠症の臨床症状とその意味
		2. 嗜睡の臨床症状とその意味
	八. 飲食と味覚について尋ねる	1. 喉の渇きと飲水：口渇多飲、渇不多飲の臨床症状とその意味
		2. 食欲と食量：食欲不振、拒食、消谷善飢（多食後の食欲がある）、飢不欲食（食欲があるが食べられない）、除中（死の直前に一時的に食が進むこと）の臨床症状とその意味
		3. 味覚：あっさり、甘い、粘っこい、酸っぱい、渋い、苦い、塩辛い場合の臨床症状とその意味
	九. 大小便について尋ねる	1. 大便異常（頻度、質、排便の感覚）の臨床症状とその意味
		2. 排尿異常（頻尿、排尿量、排尿感）の臨床症状とその意味
十. 月経とおりものについて尋ねる	1. 月経時期と月経量の異常の臨床症状とその意味	
	2. 閉経、月経痛、不正性器出血の臨床症状とその意味	
	3. おりもの異常（白い、黄色い）の臨床症状とその意味	
第六単元 脈診	一. 脈診概説	1. 脈象形成の原理
		2. 脈診の部位
		3. 脈診の方法と注意事項
		4. 脈象の要素
	二. 正常な脈象	1. 正常な脈象の現れ方
		2. 正常な脈象の特徴（胃、精、根）
	三. 一般的な脈象（脈拍の遅速・強弱・深浅などの状態）の特徴と臨床的意味	1. 一般的な脈象の特徴と弁証（浮脈、沈脈、遲脈、數脈、虚脈、実脈、洪脈、細脈、滑脈、澀脈、弦脈、緊脈、緩脈、濡脈、弱脈、微脈、結脈、促脈、代脈、散脈、芤脈、革脈、伏脈、牢脈、疾脈、長脈、短脈、動脈）
		2. 一般的な脈象の臨床的意味
	四. 相兼脈と真臟脈	1. 相兼脈の概念と主治病証
		2. 真臟脈の概念と臨床的意味
五. 小児の脈診	1. 小児の正常な脈象の特徴	
	2. 一般的な小児の病脈の臨床的意味	
六. 女性の脈診	月経脈と妊娠脈の脈象と臨床的意味	

単元	細目	要点
第七単元 按診	按診（触診）	1. 按診の方法と注意事項
		2. 皮膚・手足を押す内容とその臨床的意味
		3. 腹部を押して、痛み、ふくらみ、固まりを弁証する要点
		4. 胸部虚里を押す臨床的意味
		5. 腧穴を押す内容とその臨床的意味
第八単元 八綱弁証	一. 概要	八綱弁証の概念
	二. 表裏	1. 表証と裏証の概念
		2. 表証と裏証の臨床症状と弁証の要点
		3. 表証と裏証の鑑別の要点
	三. 寒熱	1. 寒証と熱証の概念
		2. 寒証と熱証の臨床症状と鑑別の要点
	四. 虚実	1. 虚証と実証の概念
		2. 虚証と実証の臨床症状と鑑別の要点
	五. 陰陽	1. 陰証と陽証の概念
		2. 陰証と陽証の鑑別の要点
		3. 陽虚証、陰虚証の臨床症状
		4. 亡陽証、亡陰証の臨床症状と鑑別の要点
	六. 八綱証候の関係	1. 証候相兼、錯雑と転化（寒証の熱証への転化、熱証の寒証への転化、実証の虚への転化）の概念
		2. 証候の真偽（寒熱の真偽、虚実の真偽）の鑑別の要点
第九単元 病因の弁証	一. 六淫の弁証	風淫証、寒淫証、暑淫証、湿淫証、燥淫証、火淫証の臨床症状
	二. 情緒の弁証	1. 喜証の臨床症状
		2. 怒証の臨床症状
		3. 悲証の臨床症状
		4. 憂証の臨床症状
		5. 恐証の臨床症状
		6. 思証の臨床症状
第十単元 気、血、津液の弁証	一. 気病の弁証	1. 気虚証の臨床症状と弁証の要点
		2. 気陷証の臨床症状と弁証の要点
		3. 気不固証の臨床症状と弁証の要点
		4. 気脱証の臨床症状と弁証の要点
		5. 気滯証の臨床症状と弁証の要点
		6. 気逆証の臨床症状と弁証の要点
		7. 気閉証の臨床症状と弁証の要点

単元	細目	要点	
第十単元 気、血、津液の弁証	二. 血病の弁証	1. 血虚証の臨床症状と弁証の要点	
		2. 血脱証の臨床症状と弁証の要点	
		3. 血瘀証の臨床症状と弁証の要点	
		4. 血熱証の臨床症状と弁証の要点	
		5. 血寒証の臨床症状と弁証の要点	
	三. 気、血の同病弁証	気滞血瘀、気虚血瘀、気血両虚、気不摂血、気随血脱の証の臨床症状と弁証の要点	
	四. 津液病の弁証	1. 痰証の臨床症状と弁証の要点	
		2. 飲証の臨床症状と弁証の要点	
		3. 水停証の臨床症状と弁証の要点	
		4. 津液虧虚証の臨床症状と弁証の要点	
	第十一単元 臓腑の弁証	一. 心病と小腸病の弁証	1. 心気虚証、心陽虚証、心陽虚脱証の臨床症状と鑑別の要点
			2. 心血虚証と心陰虚証の臨床症状と鑑別の要点
3. 心脈痹阻証の臨床症状と瘀阻心脈、痰阻心脈、寒凝心脈、気滞心脈の四証の鑑別			
4. 痰蒙心神証、痰火擾神証の臨床症状と鑑別の要点			
5. 心火亢盛証の臨床症状			
6. 瘀阻腦絡証の臨床症状			
7. 小腸実熱証の臨床症状			
二. 肺病と大腸病の弁証		1. 肺気虚証、肺陰虚証の臨床症状と鑑別の要点	
		2. 風寒犯肺証、肺痰阻肺証、飲停胸脇証の臨床症状と鑑別の要点	
		3. 風熱犯肺証、肺熱熾盛証、痰熱壅肺証、燥邪犯肺証の臨床症状と鑑別の要点	
		4. 風水相搏証の臨床症状	
		5. 腸道湿熱証、腸熱腑実証、腸燥津虧の証の臨床症状と鑑別の要点	
三. 脾病と胃病の弁証		1. 脾気虚証、脾陽虚証、脾虚気陷証、脾不統血証の臨床症状と鑑別の要点	
		2. 湿熱蘊脾証、寒湿困脾証の臨床症状と鑑別の要点	
		3. 胃気虚証、胃陽虚証、胃陰虚証の臨床症状と鑑別の要点	
		4. 胃熱熾盛証、寒飲停胃証の臨床症状と鑑別の要点	
		5. 寒滞胃腸証、食滞胃腸証、胃腸気滞証の臨床症状と鑑別の要点	

単元	細目	要点	
第十一単元 臓腑の弁証	四. 肝病と胆嚢病の弁証	1. 肝血虚証、肝陰虚証の臨床症状と鑑別の要点	
		2. 肝鬱気滞証、肝火熾盛証、肝陽上亢証の臨床症状と鑑別の要点	
		3. 肝風内動四証の臨床症状と鑑別の要点	
		4. 寒滯肝脈証の臨床症状	
		5. 肝胆湿熱証の臨床症状	
		6. 胆鬱痰憂証の臨床症状	
	五. 腎病と膀胱病の弁証	1. 腎陽虚証、腎陰虚証、腎精不足証、腎気不固証、腎虚水泛証の臨床症状と鑑別の要点	
		2. 膀胱湿熱証の臨床症状	
	六. 臓腑兼病の弁証	1. 心腎不交証、心脾気血証の臨床症状と鑑別の要点	
		2. 肺火犯肺証、肝胃不和証、肝脾不調証の臨床症状と鑑別の要点	
		3. 心肺気虚証、脾肺気虚証、肺腎気虚証の臨床症状と鑑別の要点	
		4. 心腎陽虚証、脾腎陽虚証の臨床症状と鑑別の要点	
		5. 心肝血虚証、肝腎陰虚証、肺腎陰虚証の臨床症状と弁証の要点	
	七. 臓腑弁証の各関連する証候の鑑別	各臓腑間の関連証候の鑑別の要点	
	第十二単元 六経弁証	一. 太陽病証	1. 太陽経証（太陽中風証、太陽傷寒証）の臨床症状と弁証の要点
			2. 太陽腑証（太陽蓄水証、太陽蓄血証）の臨床症状と弁証の要点
二. 陽明病証		1. 陽明経証の臨床症状と弁証の要点	
		2. 陽明腑証の臨床症状と弁証の要点	
三. 少陽病証		少陽病証の臨床症状と弁証の要点	
四. 太陰病証		太陰病証の臨床症状と弁証の要点	
五. 少陰病証		1. 少陰寒化証の臨床症状と弁証の要点	
		2. 少陰熱化証の臨床症状と弁証の要点	
六. 厥陰病証		厥陰病証の臨床症状と弁証の要点	
七. 六経病証の伝変（臓腑間の病理的な相互影響）		伝経、直中、合病、併病の概念	

単元	細目	要点
第十三単元 衛気営血弁証	一. 衛分証	衛分証の臨床症状と弁証の要点
	二. 気分証	気分証の臨床症状と弁証の要点
	三. 榮分証	榮分証の臨床症状と弁証の要点
	四. 血分証	血分証の臨床症状と弁証の要点
	五. 衛気営血証の伝変	順伝と逆伝の概念
第十四単元 三焦弁証	一. 上焦病証	上焦病証の臨床症状と弁証の要点
	二. 中焦病証	中焦病の臨床症状と弁証の要点
	三. 下焦病証	下焦病証の臨床症状と弁証の要点
	四. 三焦病証の伝染	順伝と逆伝の概念
第十五単元 中医学の診断思考と応用	一. 中医学における診断思考法	基本的な思考法とプロセス
	二. 中医学における診断思考の応用	弁病、弁証、弁症

(三) 中薬学

単元	細目	要点
第一単元 中薬の特性	一. 四気	1. 代表的な薬物を組み合わせて四気の判定を理解する
		2. 四気の作用とその適応証
	二. 五味	1. 代表的な薬物を組み合わせて五味の判定を理解する
		2. 五味の作用と効果
	三. 昇降浮沈	1. 各種薬物の昇降浮沈の傾向
		2. 薬物の昇降浮沈に影響を与える主な要素
	四. 帰経	1. 帰経の臨床的意味
		2. 代表的な薬物を組み合わせて帰経の確定を認識する
	五. 毒性	1. 毒性反応を引き起こす原因
		2. 具体的な毒性薬物を組合せて、使用する際の注意事項を理解する
第二単元 中薬の作用	一. 中薬の作用と副作用	中薬の作用と副作用
	二. 中薬の効果	1. 効果と主治（薬の効能）の関係
2. 効果の分類		
第三単元 中薬の配合	一. 中薬配合の意味	中薬配合の意味
	二. 中薬の配合内容	1. 各種配合関係の意味
2. 各種配合関係の臨床対応の原則		
第四単元 中薬の使用禁忌	一. 配合の禁忌	1. 「十八反」の内容
		2. 「十九畏」の内容
	一. 証候の禁忌	証候の禁忌の概念と内容
	三. 妊娠中の薬物使用の禁忌	1. 妊娠中の薬物使用の禁忌の概念
2. 妊娠禁忌薬の分類と使用原則		
四. 服薬飲食の禁忌	1. 薬を服用する際の一般的な飲食禁忌	
	2. 特殊な疾病の飲食禁忌	
第五単元 中薬の用量と用法	一. 分量	1. 中薬の薬剂量に影響する要素
		2. 毒薬、薬効の激しい薬、ある種の貴重な薬の分量
	二. 中薬の用法	1. 煎じ方（先煎、後下、包煎、另煎、焯化、冲服など）
		2. 服薬期間
第六単元 解表薬（温めて発汗を促す薬）	一. 概要	1. 解表薬の特性・特徴、効果、主治病証
		2. 解表薬の配合方法
		3. 解表薬の使用上の注意

単元	細目	要点
第六単元 解表薬（温めて発汗を促す薬）	二．発散風寒薬	1. 麻黄、桂枝、紫蘇、荊芥、防風、羌活、白芷の特性、効果、応用
		2. 生姜、香薷、細辛、辛夷、藁本、蒼耳子の効果、主治病証
		3. 麻黄、香薷、細辛、荊芥、辛夷の用法・用量
		4. 麻黄、桂枝、香薷、細辛、蒼耳子の使用上の注意
		5. 生麻黄と炙麻黄、麻黄と桂枝、荊芥と防風邪、紫蘇と生姜など、類似薬物の効用の相違点と共通点
		6. 麻黄＋桂枝、麻黄＋石膏、麻黄＋苦杏仁、桂枝＋白芍、細辛＋乾姜、五味子などの意味
	三．発散風熱薬	1. 薄荷、牛蒡子、セミの抜け殻、桑葉、菊花、柴胡、葛根の特性、効果、応用
		2. 蔓荊子、升麻の効果、主治病証
		3. 淡豆豉の効果
		4. 薄荷、桑葉、柴胡、葛根の用法
		5. 薄荷、牛蒡子の使用上の注意
		6. 薄荷および牛蒡子とセミの抜け殻、桑葉と菊花、柴胡および葛根と升麻など、類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 柴胡＋黄芩、菊花＋枸杞子、桑葉＋菊花などの意味
第七単元 清熱薬（解熱薬）	一．概要	1. 清熱薬の分類、各種清熱薬の効果と主治病証
		2. 清熱薬の配合方法
		3. 清熱薬の使用上の注意事項
	二．清熱瀉火薬	1. 石膏、知母、梔子、夏枯草の特性、効果、応用
		2. 蘆根、天花粉、淡竹葉、決明子の効果、主治病証
		3. 石膏、知母、梔子、決明子の用法
		4. 石膏、知母、天花粉の使用上の注意
		5. 生石膏と焼石膏、石膏と知母、蘆根と天花粉など類似薬物の効用の相違点と共通点
		6. 石膏＋知母、知母＋黄柏、知母＋川貝母、梔子＋淡豆豉、梔子＋茵陳などの意味

単元	細目	要点
第七単元 清熱薬（解熱薬）	三．清熱燥湿薬	1 黄芩、黄連、黄柏の特性、効果、応用
		2. 竜胆、苦参の効果、主治病証
		3. 秦皮、白鮮皮の効果
		4 黄芩、黄連、黄柏の用法
		5. 苦参の使用上の注意
		6. 黄芩、黄連と黄柏、梔子と竜胆など類似薬物の特性と効用の相違点と共通点
		7. 黄連＋木香、黄連＋呉茱萸、黄連＋半夏、瓜呂、黄柏＋蒼朮などの意味
	四．清熱解毒薬	1. 金銀花、連翹、大青葉、蒲公英、魚腥草、射干、白頭翁の特性、効果、応用
		2. 板藍根、青黛、貫衆、土茯苓、山豆根、白花蛇舌草の効果、主治病証
		3. 穿心蓮、紫花地丁、大血藤、敗醬草、馬勃、馬齒莧、鴉胆子、熊胆粉、山慈菇、漏蘆、野菊花の効果
		4. 穿心蓮、青黛、鴉胆子、熊胆粉、山豆根の用法・用量
		5. 穿心蓮、射干、山豆根、鴉胆子、山慈菇、漏蘆の使用上の注意
		6. 金銀花と連翹、大青葉および板藍根と青黛、紫花地丁と蒲公英、白頭翁、鴉胆子、大血藤と敗醬草など類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 金銀花＋連翹、金銀花＋当帰、麻黄＋射干などの意味
	五．清熱涼血薬	1. 生地黄、玄参、牡丹皮、赤芍の特性、効用、応用
		2. 紫草、水牛角の効果、主治病証
		3. 水牛角の用法
		4. 生地黄、玄参、牡丹皮、赤芍、紫草の使用上の注意
5. 生地黄と玄参、牡丹皮と赤芍など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点		
6. 生地黄＋玄参、赤芍＋牡丹皮などの意味		

単元	細目	要点	
第七単元 清熱薬（解熱薬）	六. 清虚熱薬	1. 青蒿、地骨皮の特性、効果、応用	
		2. 白薇、銀柴胡、胡黄連の効果	
		3. 青蒿の用法	
		4. 青蒿の使用上の注意	
		5. 牡丹皮と地骨皮、黄連と胡黄連など類似薬物の効用の相違点と共通点	
		6. 青蒿+鱉甲、青蒿+黄芩、地骨皮+桑白皮などの意味	
第八単元 瀉下薬（下剤）	一. 概要	1. 攻下薬、潤下薬と峻下逐水薬の特性・特徴、主治病証	
		2. 瀉下薬の配合方法	
		3. 瀉下薬の使用上の注意	
	二. 攻下薬	1. 大黄、芒硝の特性、効果、応用	
		2. 番瀉葉の効果	
		3. 大黄、芒硝、番瀉葉、アロエの用法・用量	
		4. 大黄、芒硝、番瀉葉、アロエの使用上の注意	
		5. 大黄の数種類の炮製品、大黄と芒硝などの類似薬物の効用と相違点と共通点	
		6. 大黄+芒硝、大黄+附子などの意味	
	三. 潤下薬	1. 火麻仁、郁李仁、松子仁、蓖麻仁の効果、主治病証	
		2. 火麻仁の用法・用量	
		3. 郁李仁の使用上の注意	
	四. 峻下逐水薬	1. 甘遂、牽牛子、巴豆霜の効果、主治病証	
		2. 京大戟、芫花の効果	
		3. 甘遂、京大戟、芫花、牽牛子、巴豆霜の用法・用量	
		4. 甘遂、京大戟、芫花、牽牛子、巴豆霜の使用上の注意	
	第九単元 祛風湿薬（風邪や湿邪を追い払う薬）	一. 概要	1. 風湿薬の特性・特徴、主治病証
			2. 祛風湿薬の配合方法
3. 祛風湿薬の使用上の注意事項			
二. 祛風寒湿薬（風邪や寒邪を追い払う薬）		1. 独活、威靈仙、川烏、木瓜の特性、効果、応用	
		2. 蕪蛇、烏梢蛇、青風藤の効果、主治病証	
		3. 川烏、蕪蛇の用法	
		4. 川烏、木瓜の使用上の注意	
		5. 羌活と独活、独活と威靈仙などの類似薬物の特性、効用の相違点と共通点	
		6. 独活+羌活、独活+桑寄生などの意味	

単元	細目	要点
第九単元 祛風湿薬（風邪や湿邪を追い払う薬）	三．祛風湿熱薬（風邪、湿邪、熱邪を取り除く）	1. 秦艽、防己の特性、効果、応用
		2. 豨薟草、絡石藤、桑枝の効果
		3. 豨薟草の用法・用量
		4. 防己の使用上の注意
		5. 秦艽と防己など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
	四．祛風湿強筋骨薬（風邪、湿邪を取り除き、筋肉と骨を強化する）	1. 桑寄生の特性、効果、応用
		2. 五加皮の効果、主治病証
		3. 狗脊の効果
4. 五加皮、桑寄生など類似薬物の効用の相違点と共通点		
第十単元 化湿薬（湿邪を取り除く薬）	一．概要	1. 化湿薬の特性、特徴、効果、主治病証
		2. 化湿薬の配合方法
		3. 化湿薬の使用上の注意
	二．具体的な薬物	1. 広藿香、蒼朮、厚朴の特性、効果、応用
		2. 砂仁、白豆蔻の効果、主治病証
		3. 佩蘭、草果の効果
		4. 砂仁、白豆蔻の用法・用量
		5. 蒼朮と厚朴、砂仁と白豆蔻、砂仁と木香、広藿香と佩蘭など類似薬物効用の相違点と共通点
		6. 蒼朮＋厚朴、陳皮、厚朴＋枳実、広藿香＋佩蘭、砂仁＋木香などの意味
		7. 砂仁、木香、白豆蔻、草果の用法・用量
第十一単元 利水滲湿薬（余分な水を取り除き、水の代謝機能を回復させる薬）	一．概要	1. 利水滲湿薬の特性・特性、効果、主治病証
		2. 利水滲湿薬水の配合方法
		3. 利水滲湿薬の使用上の注意
	二．利水消腫薬（浮腫みと腫れをとる薬）	1. 茯苓、薏苡仁、沢瀉の特性、効果、応用
		2. 猪苓の効果、主治病証
		3. 香加皮、冬瓜皮の効果
		4. 薏苡仁の用法
		5. 香加皮の使用上の注意
		6. 茯苓と猪苓、茯苓と薏苡仁など類似薬物の特性、効用における相違点と共通点
	三．利尿通淋薬（利尿作用によって排尿痛、排尿困難、濁尿などの尿の出にくい状態を改善する）	1. 車前子の特性、効果、応用
		2. 滑石、石韋、木通の効果、主治病証
		3. 通草、瞿麦、地肤子、海金沙、萹蓄、篇蓄の効果

単元	細目	要点	
第十一単元 利水滲湿薬（余分な水を取り除き、水の代謝機能を回復させる薬）	三．利尿通淋薬（利尿作用によって排尿痛、排尿困難、濁尿などの尿の出にくい状態を改善する）	4. 車前子、滑石、海金沙の用法	
		5. 車前子、滑石の使用上の注意	
		6. 車前子、滑石など類似薬物の効用の相違点と共通点	
		7. 滑石＋生甘草などの意味	
	四．利湿退黄薬（体内の余分な水分を排出させ黄疸を消退させる薬）	1. 茵陳、金錢草の特性、効果、応用	
		2. 虎杖の効果、主治病証	
		3. 虎杖と大黄など類似薬物の特性・効用の相違点と共通点	
		4. 茵陳＋大黄、梔子などの意味	
第十二単元 温裏薬（臓腑を温め、冷えの症状を改善する）	一．概要	1. 温裏薬の特性・特徴、効果、主治病証	
		2. 温裏薬の配合方法	
		3. 温裏薬の使用上の注意	
	二．具体的な薬物	1. 附子、干姜、肉桂、呉茱萸の特性、効果、応用	
		2. 小茴香、丁香、花椒の効果、主治病証	
		3. 高良姜の効果	
		4. 附子、肉桂、呉茱萸、花椒の用法・用量	
		5. 附子、肉桂、呉茱萸、丁香の使用上の注意	
		6. 附子と川烏、附子と干姜、附子と肉桂、干姜と生姜相違点と共通点	
		7. 附子＋干姜、肉桂＋附子、黄連＋呉茱萸の意味	
	第十三単元 理気薬（気滞を解消する）	一．概要	1. 理気薬の特性・特徴、効果、主要治療法
			2. 理気薬の配合方法
			3. 理気薬の使用上の注意
二．具体的な薬物		1. 陳皮、枳実、木香、香附の特性、効果、応用	
		2. 青皮、沉香、川楝子、烏薬、薤白の効果、主治病証	
		3. 檀香、荔枝核、仏手柑、大腹皮の効果	
		4. 木香、沉香、檀香の用法	
		5. 枳実、川楝子、薤白の使用上の注意	
		6. 陳皮と清皮、木香、烏薬と香附など類似薬物の効用の相違点と共通点	
		7. 陳皮＋半夏、枳実＋白朮、薤白＋瓜呂仁などの意味	

単元	細目	要点
第十四単元 消食薬（消化を助ける薬）	一. 概要	消食薬の配合方法
	二. 具体的な薬物	1. 山楂、莱菔子、麦芽、鶏内金の特性、効果、応用
		2. 神曲の効果、主治病証
		3. 稻芽の効果
		4. 鶏内金、麦芽の用法
		5. 山楂、麦芽、莱菔子の使用上の注意
		6. 莱菔子+紫蘇子、芥子などの意味
第十五単元 駆虫薬	一. 概要	1. 駆虫薬の配合方法 2. 駆虫薬の使用の注意事項
	二. 具体的な薬物	1. 檳榔の特性、効果、応用
		2. 使君子、苦楝皮の効果、主治病証
		3. 雷丸、榧子の効果
		4. 使君子、苦楝皮、檳榔、雷丸の用法・用量
		5. 使君子、苦楝皮、檳榔の使用上の注意
	第十六単元 止血薬	一. 概要
二. 涼血止血薬		1. 小薊、地榆の特性、効果、応用
		2. 大薊、槐花、側柏葉、白茅根の効果、主治病証
		3. 槐花の用法
		4. 地榆の使用上の注意
		5. 大薊と小薊、蘆根と白茅根など類似薬物の効用の相違点と共通点
三. 化瘀止血薬		1. 三七、茜草の特性、効果、応用
		2. 蒲黄の効果、主治病証
		3. 降香の効果
		4. 三七、蒲黄、降香の用法・用量
		5. 三七、蒲黄の使用上の注意
		6. 三七、茜草と蒲黄、生蒲黄と炒蒲黄などの類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 蒲黄+五靈脂、三七+白及などの意味
四. 収斂止血薬		1. 白及の特性、効果、応用
		2. 仙鶴草、棕櫚炭、血余炭の効果、主治病証
		3. 白及の使用上の注意

単元	細目	要点	
第十六単元 止血薬	五. 温経止血薬	1. 艾葉の特性、効果、応用	
		2. 炮姜の効果	
		3. 艾葉+阿膠などの意味	
第十七単元 活血化癥薬（瘀血症状を改善する）	一. 概要	1. 活血化癥薬の特性、効果、主治病証	
		2. 活血化癥薬の配合方法	
		3. 活血化癥薬の使用上の注意事項	
	二. 活血止痛薬（血を滞りなくめぐらせて、鎮痛をはかる薬）	1. 川芎、延胡索、郁金の特性、効果、応用	
		2. 姜黄、乳香の効果、主治病証	
		3. 没薬、五霊脂の効果	
		4. 延胡索、五霊脂の用法	
		5. 郁金、乳香、没薬、五霊脂の使用上の注意	
		6. 郁金と姜黄など類似薬物の効用の相違点と共通点	
		7. 郁金+石菖蒲などの意味	
	三. 活血調経薬	1. 丹参、紅花、桃仁、益母草、牛膝の特性、効果、応用	
		2. 鶏血藤の効果、主治病証	
		3. 王不留行、沢蘭の効果	
		4. 牛膝の用法	
		5. 丹参の使用上の注意	
		6. 川芎と丹参、紅花と桃仁など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点	
		7. 牛膝+蒼朮、黄柏などの意味	
	四. 活血療傷薬	1. 土鱉虫の特性、効果、応用	
		2. 自然銅、蘇木、骨碎補、血竭の効果	
		3. 血竭の用法・用量	
	五. 破血消癥薬（血の滞りをなくす薬）	1. 莪朮、水蛭の効果、主治病証	
		2. 三稜、穿山甲の効果	
		3. 莪朮、三稜の使用上の注意	
	第十八単元 化痰止咳薬（呼吸困難などの喘咳を軽減する）	一. 概要	1. 化痰止咳平喘薬の特性、効果、主治病証
			2. 化痰止咳平喘薬の配合方法
			3. 化痰止咳平喘薬の使用上の注意事項
		二. 温化寒痰薬（痰の分泌を改善する）	1. 半夏、旋覆花の特性、効果、応用
2. 天南星、芥子の効果、主治病証			
3. 白前の効果			
4. 半夏、天南星、芥子、旋覆花の用法・用量			

単元	細目	要点
第十八単元 化痰止咳薬（呼吸困難などの喘咳を軽減する）	二．温化寒痰薬（痰の分泌を改善する）	5. 半夏、天南星、芥子、旋覆花の使用上の注意
		6. 数種類の半夏炮製品、半夏と天南星など類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 半夏＋生姜、旋覆花＋赭石の意味
	三．清化熱痰薬（熱痰を改善する）	1. 川貝母、浙貝母、瓜呂仁、桔梗の特性、効果、応用
		2. 竹茹、竹瀝の効果、主治病証
		3. 天竺黄、前胡、海藻、昆布、海蛤壳の効果
		4. 竹瀝の用法・用量
		5. 川貝母、浙貝母、瓜呂仁、海藻、桔梗の使用上の注意
		6. 川貝母と浙貝母、瓜呂仁皮と瓜呂仁など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
		7. 桔梗＋甘草などの意味
	四．止咳平喘薬	1. 苦杏仁、百部、紫蘇子、桑白皮、葶藶子の特性、効果、応用
		2. 紫菀、款冬花、枇杷葉、白果の効果、主治病証
		3. 苦杏仁、百部、枇杷葉の用法
		4. 苦杏仁、白果、百部の使用上の注意
		5. 苦杏仁と紫蘇、苦杏仁と桃仁、桑白皮と葶藶子など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
第十九単元 安神薬（心を穏やかに安定させる薬）	一．概要	1. 安神薬の配合方法
		2. 安神薬の使用上の注意
	二．重鎮安神薬	1. 朱砂、磁石、竜骨の特性、効果、応用
		2. 琥珀の効果
		3. 朱砂、磁石、竜骨、琥珀の用法・用量
		4. 朱砂、磁石の使用上の注意
		5. 朱砂と磁石など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
		6. 磁石＋朱砂などの意味
	三．養心安神薬	1. 酸棗仁の特性、効果、応用
		2. 柏子仁、遠志の効果、主治病証
		3. 首烏藤、合歡皮の効果
		4. 柏子仁、遠志の使用上の注意
		5. 酸棗仁と柏子仁など類似薬物の効用の相違点と共通点

単元	細目	要点	
第二十単元 平肝熄風薬（肝風を平熄させる薬）	一. 概要	1. 平肝熄風薬の効果、主治病証	
		2. 平肝熄風薬の配合方法	
		3. 平肝熄風薬の使用上の注意事項	
	二. 平抑肝陽薬	1. 石決明、牡蠣、赭石の特性、効果、応用	
		2. 珍珠母、蒺藜、羅布麻葉の効果	
		3. 石決明、珍珠母、牡蠣、赭石の用法	
		4. 赭石、羅布麻葉の使用上の注意	
		5. 決明と石決明、竜骨と牡蠣など類似薬物の効用の相違点と共通点	
	三. 熄風止痙薬	1. 羚羊角、牛黄、鉤藤、天麻の特性、効果、応用	
		2. 地竜、全蠍、ムカデ、白僵蚕の効果、主治病証	
		3. 珍珠の効果	
		4. 羚羊角、牛黄、珍珠、鉤藤、全蠍、ムカデの用法・用量	
		5. 牛黄、全蠍、ムカデの使用上の注意	
		6. 羚羊角と牛黄、鉤藤と天麻、全蠍とムカデなど類似薬物の効用の相違点と共通点	
		7. 羚羊角＋鉤藤、天麻＋鉤藤、全蠍＋ムカデなどの意味	
第二十一単元 開竅薬（血液循環器系を改善する）	一. 概要	1. 開竅薬の特性、効果、主治病証	
		2. 開竅薬の配合方法	
		3. 開竅薬の使用上の注意	
	二. 具体的な薬物	1. 麝香、石菖蒲の特性、効果、応用	
		2. 冰片の効果、主治病証	
		3. 蘇合香の効果	
		4. 麝香、冰片、蘇合香の用法・用量	
		5. 麝香、冰片の使用上の注意	
		6. 麝香と冰片など類似薬物の効用の相違点と共通点	
		7. 麝香＋冰片などの意味	
	第二十二単元 補虚薬（正気を補う薬）	一. 概要	1. 各種補虚薬の効果、主治病証
			2. 補虚薬の配合方法
			3. 補虚薬の使用上の注意事項

単元	細目	要点
第二十二単元 補虚薬（正気を補う薬）	二. 補気薬	1. 人参、党参、黄芪、白朮、甘草の特性、効果、応用
		2. 西洋参、太子参、山薬の効果、主治病証
		3. 白扁豆、大棗、蜂蜜の効果
		4. 人参、西洋参、黄芪、白朮、甘草の用法・用量
		5. 人参、西洋参、党参、白朮、甘草の使用上の注意
		6. 数種類の人参炮製品、生黄芪と炙黄芪、人参と党参、人参と黄芪、黄芪と白朮、蒼朮と白朮、白朮と山薬など類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
		7. 人参＋附子、人参＋麦冬、五味子、黄芪＋茯苓、黄芪＋柴胡、升麻、甘草＋白芍などの意味
	三. 補陽薬（体を温める薬）	1. 鹿茸、淫羊藿、杜仲、続断、菟糸子の特性、効果、応用
		2. 紫河車、巴戟天、補骨脂、冬虫夏草の効果、主治病証
		3. 仙茅、肉蓯蓉、鎖陽、益智仁、沙苑子、オオヤマモリの効果
		4. 鹿茸、オオヤマモリ、冬虫夏草の用法・用量
		5. 鹿茸の使用上の注意
		6. 淫羊藿と巴戟天、杜仲、続断と桑寄生など類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 人参＋オオヤマモリなどの意味
	四. 補血薬	1. 当帰、熟地黄、白芍、阿胶、何首烏の特性、効果、応用
		2. 竜眼肉の効果、主治病証
		3. 当帰、阿胶の用法
		4. 当帰、熟地黄、白芍、阿胶の使用上の注意
		5. 当帰と熟地黄、当帰と白芍、生地黄と熟地黄、白芍と赤芍、生首烏と制首烏などの類似薬物の特性、効用の相違点と共通点
		6. 当帰の黄芪などの意味

単元	細目	要点
第二十二単元 補虚薬（正気を補う薬）	五. 補陰薬	1. 北沙参、麦冬、亀甲、鱉甲の特性、効果、応用
		2. 百合、天冬、石斛、玉竹、枸杞子、女貞子の効果、主治病証
		3. 南沙参、黄精、墨旱蓮、楮実子の効果
		4. 女貞子、亀甲、鱉甲の用法
		5. 北沙参、南沙参、亀甲、鱉甲の使用上の注意
		6. 北沙参と南沙参、麦冬と天冬、亀甲と鱉甲など類似薬物の効用の相違点と共通点
		7. 女貞子+墨旱蓮などの意味
第二十三単元 収澁薬（体内から漏れ出るものを止める薬）	一. 概要	1. 収澁薬の効果、主治病証
		2. 収澁薬の配合方法
		3. 収澁薬の使用上の注意事項
	二. 固表止汗薬	麻黄根、浮小麦の効果
	三. 斂肺澁腸薬（慢性の咳を止め腸の効用を回復させる薬）	1. 五味子、烏梅の特性、効果、応用
		2. 訶子、ニクズクの効果、主治病証
		3. 五倍子、赤石脂の効果
		4. 訶子、ニクズクの用法
		5. 赤石脂の使用上の注意
		6. 五味子と烏梅、ニクズクとビャクズクなど類似薬物の効用の相違点と共通点
	四. 固精縮尿止帯薬（精液の漏れを防ぎ、夜尿やおりものを止める薬）	1. 山茱萸と蓮子の特性、効果、応用
		2. 桑螵蛸、海螵蛸、芡実の効果、主治病証
		3. 金桜子、椿皮の効果
4. 桑螵蛸の使用上の注意		
5. 蓮子と芡実など類似薬物の効用の相違点と共通点		
第二十四単元 攻毒殺虫止痒薬	一. 概要	攻毒殺虫止痒の使用上の注意事項
	二. 具体的な薬物	1. 雄黄、硫黄、蛇床子の効果、主治病証
		2. 白礬、蟾酥、蜂房の効果
		3. 白礬、蟾酥の用法・用量
		4. 雄黄、蟾酥の使用上の注意
第二十五単元 拔毒化腐生肌薬（毒を抜き、傷あとの再生を促進する）	一. 概要	拔毒化腐生肌薬の使用上の注意事項
	二. 具体的な薬物	1. 升薬の効果、主治病証
		2. 砒石、炉甘石、ホウ砂の効果
		3. 升薬、砒石、ホウ砂の用法・用量
		4. 升薬、砒石、炉甘石の使用上の注意

(四) 方剤学 (処方学)

単元	細目	要点
第一単元 総論	一. 方剤と治療方法	1. 方剤と治療方法の関係
		2. よく使われる治療方法
	二. 方剤の構成と変化	1. 方剤の構成原則
2. 方剤の変化・形式		
	三. 剤形	一般的な剤形である煎じ薬、丸剤、散剤、膏剤の特徴
第二単元 解表剤 (発汗して病邪を排除し病を治す薬)	一. 概要	解表剤の適用範囲および注意事項
	二. 辛温解表	1. 麻黄湯、桂枝湯、小青竜湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 大青竜湯、九味羌活湯、止嗽散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三. 辛涼解表 (体を冷やす)	1. 銀翹散の構成薬物、効用、主治症候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 麻黄杏仁甘草石膏湯、桑菊飲の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 柴葛解肌湯の構成薬物、効用および主治証候
	四. 扶正解表 (正気を補いながら解表する)	1. 敗毒散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
2. 参蘇飲の構成薬物、効用および主治証候		
第三単元 瀉下剤 (便秘薬)	一. 概要	瀉下剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 寒下 (寒性の薬物を用いる)	1. 大承気湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 大陷胸湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
	三. 温下 (温性の薬物を用いる)	温脾湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
	四. 潤下 (腸と便を潤す)	麻子仁丸、済川煎の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味
	五. 逐水 (強い利尿効果を以て浮腫を軽減する)	十棗湯の構成薬物、効用、主治証候および用法の要点
六. 攻補兼施 (体内にある悪いものの排出を促しながら、同時に栄養も補給する)	黄竜湯の構成薬物、効用および主治証候	
第四単元 和解剤 (臓腑の機能を調和させて病邪を除く)	一. 概要	和解剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 和解少陽 (表裏の間に滞っている邪を和解する)	1. 小柴胡湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
2. 蒿芩清胆湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味		

単元	細目	要点
第四単元 和解剤（臓腑の機能を調和させて病邪を除く）	三．調和肝脾（肝と脾を調和する）	1. 逍遙散の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 四逆散の構成、効用、主治病証および配合の意味
		3. 痛瀉要方の構成薬物、効用および主治証候
	四．調和腸胃	半夏瀉心湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
第五単元 清熱剤（肝胆の湿熱を改善する）	一．概要	清熱剤の適用範囲および応用の注意事項
	二．清気分熱（気分の段階にある熱邪を清解する）	1. 白虎湯の薬の構成、効用、主治証候および配合の意味
		2. 竹葉石膏湯の構成薬物、効用および主治証候
	三．清宮涼血（熱で出血しやすい状態を改善する）	1. 清宮湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 犀角地黄湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	四．清熱解毒（熱を冷まし解毒する）	1. 黄連解毒湯の構成薬物、効用、主治病証、組み合わせの意味、全方配合の特徴と利用
		2. 涼膈散、普濟消毒飲の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	五．清臟腑熱（臓腑の熱を除去する）	1. 竜胆瀉肝湯、芍薬湯、左金丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 補中益気湯、清胃散、白頭翁湯、瀉下白散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 玉女煎の構成薬物、効用および主治証候
六．清虚熱（虚熱を解消する）	青蒿鳖甲湯、当帰六黄湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味	
第六単元 去暑剤	一．概要	去暑剤の適用範囲と応用の注意事項
	二．去暑解表（暑さによる症状を発汗により取り去る）	香薷散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三．去暑利湿（暑さによる症状を体内の余分な水分を排出させて取り去る）	六一散の構成薬物、効用および主治証候
	四．去暑益気（暑さによる症状を取り去り元気を増す）	清暑益気湯（『温熱経緯』）の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味

単元	細目	要点
第七単元 温裏剤（胃腸をあたため老廃物を排出する）	一. 概要	温裏剤の適用範囲と応用の注意事項
	二. 温中去寒（温・熱性の生薬を用いて脾胃を温め、腹痛や冷え下痢などを治療する）	1. 理中丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 小建中湯、呉茱萸湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 大建中湯の構成薬物、効用および主治証候
	三. 回陽救逆（温熱性の薬物によって陽気を補い、陰寒邪を除去する）	四逆湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
四. 温経散寒（寒邪を除き関節痛や冷えを解消する）	当帰四逆湯、暖肝煎の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味	
第八単元 表裏双解剤（表証（体表の症状）と裏証（体の奥の症状）を同時に取り除く）	一. 概要	表裏双解剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 解表清裏（表邪を解除し裏熱を清解する）	葛根黄芩黄连湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三. 解表攻裏（発汗で裏熱を取る）	1. 大柴胡湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 防風通聖散の構成薬物、効用、主治証候
第九単元 補益剤（虚証を改善する）	一. 概要	補益剤の適用範囲と応用の注意事項
	二. 補気	1. 補中益気湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 四君子湯、参苓白朮散、生脈散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 玉屏風散の構成薬物、効用および主治証候
	三. 補血	1. 四物湯、帰脾湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 当帰補地湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	四. 気血双補	炙甘草湯、八珍湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
	五. 補陰	1. 六味地黄丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 左帰丸、大補陽丸、一貫煎の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味

単元	細目	要点
第九単元 補益剤（虚証を改善する）	六. 補陽	1. 腎気丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 右帰丸の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	七. 陰陽双補	地黄飲子の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
第十単元 固澁剤（体を引き締め、気や陰液（人体を構成する体液の総称）が過剰に漏れ出るのを防ぐ）	一. 概要	固澁剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 固表止汗（皮膚の栄養状態を改善して汗腺の機能を調整する）	牡蠣散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三. 斂肺止咳（慢性の咳を止める）	九仙散の構成薬物、効用および主治証候
	四. 澁腸固脱（慢性の下痢や失禁を止める）	四神丸、真人養臟湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
	五. 澁精止遺（腎虚による遺精や早漏などを止める）	桑螵蛸散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	六. 固崩止帯（不正性器出血やおりものを止める）	固衝湯、易黄湯、固経丸の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
第十一単元 安神剤（心を穏やかに安定させる）	一. 概要	安神薬の適用範囲および応用の注意事項
	二. 重鎮安神（重い生薬を用い鎮め安定させる）	朱砂安神丸の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三. 滋養安神（精神を滋養して安定させる）	1. 天王補心丹の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用 2. 酸棗仁湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
第十二単元 開竅剤（意識をはっきりさせる薬）	一. 概要	開竅剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 涼開（冷やしながらか意識をはっきりさせる）	安宮牛黄丸、紫雪、至宝丹の効用および主治証候
	三. 温開（温めながらか意識をはっきりさせる）	蘇合香丸の効用および主治証候
第十三単元 理気剤（気滞を解消する）	一. 概要	理気剤の適用範囲および応用の注意事項
	二. 行気（気の流れをよくする）	1. 越鞠丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 半夏厚朴湯、瓜蒌薤白白酒湯、天台烏薬散、厚朴温中湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 柴胡疏肝散の構成薬物、効用および主治証候

単元	細目	要点
第十三単元 理気剤（気滞を解消する）	三．降気（上がった気を下げる）	1. 蘇子降気湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 定喘湯、旋覆代赭湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
第十四単元 理血剤（気滞を解消する）	一．概要	理血剤の適用範囲と応用の注意事項
	二．活血去瘀（血流を改善する）	1. 血府逐瘀湯、補陽還五湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 桃核承気湯、温経湯、復元活血湯、桂枝茯苓丸、生化湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 失笑散の構成薬物、効用および主治証候
	三．止血	1. 咳血方の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 小薊飲子、黄土湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
3. 十灰散、槐花散の構成薬物、効用および主治証候		
第十五単元 治風剤（風邪による失調を治す薬）	一．概要	治風剤の適用範囲と応用の注意事項
	二．疎散外風（外風を避ける）	1. 川芎茶調散の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 消風散、牽正散の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味
		3. 大秦芎湯、小活絡丹の構成薬物、効用および主治証候
	三．平熄内風（内風を鎮める）	1. 羚羊鉤藤湯、鎮肝熄風湯、大定風珠の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 天麻黄湯の構成薬物、効用、主治証候症、および配合の意味
第十六単元 治燥剤（乾燥による失調を治す）	一．概要	治燥剤の適用範囲および応用の注意事項
	二．輕宣外燥（軽く発散して呼吸器系の被害を改善する）	1. 杏蘇散、清燥救肺湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		2. 桑杏湯の構成薬物、効用および主治証候

単元	細目	要点
第十六単元 治燥剤（乾燥による失調を治す）	三．滋陰潤燥（陰虚のため滋養や水分が不足し乾燥したものを潤す）	1. 麦門冬湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 玉液湯、百合固金湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
		3. 増液湯の構成薬物、効用、主治証候
第十七単元 去湿剤	一．概要	去湿剤の適用範囲および応用の注意事項
	二．燥湿和胃（脾胃の気滞を除きつつ湿を除く）	1. 藿香正気散の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 平胃散の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	三．清熱去湿（熱を除き湿邪を去る）	1. 茵陳蒿湯、三仁湯、二妙散の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 八正散、甘露消毒丹の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味
		3. 連補飲、当帰拈痛湯の構成薬物、効用および主治証候
	四．利水滲湿	五苓散、猪苓湯、防己黄芪湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	五．温化寒湿	1. 実脾散、真武湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 苓桂朮甘湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
	六．去湿化濁	1. 完帯湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 葶藶分清飲（『楊氏家蔵方』）の構成薬物、効用および主治証候
	七．去風勝湿	1. 独活寄生湯の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴および利用
		2. 羌活勝湿湯の構成薬物、効用、主治証候および配合の意味
第十八単元 去痰剤	一．概要	去痰剤の適用範囲と応用の注意事項
	二．燥湿化痰	二陳湯、温胆湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味

単元	細目	要点
第十八単元 去痰薬	三. 清熱化痰（痰を除き熱を冷ます）	清気化痰丸、小陷胸湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
	四. 潤燥化痰（潤す働きにより肺陰虚を治す）	貝母瓜蒌散の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
	五. 温化寒痰（寒性の痰を取り除く）	苓甘五味姜辛湯、三子養親湯の構成薬物、効用および主治病証
	六. 化痰熄風（痰を解消し、眩暈、ふるえ、痙攣などの状態を改善する）	半夏白朮天麻湯の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
第十九単元 消食剤（消化不良を改善する）	一. 概要	消食剤の適用範囲と応用の注意事項
	二. 消食化滯（消化の滞りを改善する）	保和丸、枳実導滯丸の構成薬物、効用、主治病証および配合の意味
	三. 健脾消食（胃・脾臓を健康にし消化を助ける）	健脾丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴と利用
第二十単元 駆虫剤	具体的な処方	烏梅丸の構成薬物、効用、主治証候、配合の意味、全方配合の特徴と利用
第二十一単元 治癰瘍剤（潰瘍を治す）	一. 概要	治癰瘍薬の適用範囲と応用の注意事項
	二. 散結消癰（できものを解消する）	1. 仙方活命飲、陽和湯構成薬物、効用、主治病証、配合の意味、全方配合の特徴と利用
		2. 大黄牡丹湯の構成薬物、効果、主治証候および配合の意味
		3. 葶藶湯の構成薬物、効用および主治証候

二. 中医学古典

中医学の古典各条文

単元	細目	要点
第一単元 内経	一. 素問-上古天真論	「古代、養生の道を知る人は……百歳を超えてこの世を去る」
	二. 素問-四気調子神大論	1. 「未病治癒」養生防病の原則
		2. 「春夏は陽を養い、秋冬は陰を養う」の養生原則とその意味
		3. 「四季における陰陽は、万物の根源である……生命を損なうことになる。」
	三. 素問-陰陽応象大論	1. 「病気を根本から治療する」ことの臨床的価値
		2. 「陰味は下の穴から排泄され、陽気は上の穴から体外に発散される……高すぎる陽気は体を傷つけ、正常な陽気は元気を生む。」
		3. 「良い医者には顔色を察し、脈を診て、まず陰陽を分かち……病の重さを見極めると診療は失敗しない。」
		4. 「病の初期は、針を刺して治療をすればよい。病が重いと、その邪気が衰退してから治療を行う。したがって、病が軽ければ発散し、重ければ元気を蓄え、病が衰え元気が回復しないときは、正気が盛んになり病邪が去るような措置を講じる……治療の時期が重要である。」
	四. 素問-経絡別論	1. 「勇ましい人は体質と精神が強く、気が弱い人は病気になるやすい」と「病気は消耗から生じる」の理論的観点
		2. 「食気は胃に入り、肝に精を散ず……常に観察を行う。」
五. 素問-太陰陽明論	1. 「脾病は四肢の動きに影響する」のメカニズムおよび臨床的意味	
	2. 「脾は五行の土に属し、中心を支配している……しかし一季節中旺盛ではない。」	
六. 靈枢-本神	1. 心の「任物」から智の「処物」への思考過程	
	2. 「生命の到来は、精気の集合を意味する……そして精気の出入りは魄を意味する。」	
七. 素問-生氣通天論	「陰気は精気を生み、陽気は、外邪に対して抵抗する。」	
八. 素問-拳痛論	「余はすべての病気は気の変化の中で生まれることを知っている……思慮が過ぎると気がふさぐ。」	
九. 素問-至真要大論	1. 「すべてのめまいは肝に属し……すべての嘔吐と、急激な下痢は熱に属する」	
	2. 「逆は正治であり、従は反治である……まず疾病の原因を探求すべきである。」	
十. 靈枢-百病始生	「風雨寒熱に遭っても病が生じない人は、体内が虚ではないからである……虚が実と一致すると大きな病となる。」	

単元	細目	要点
第一単元 内経	十一. 素問-熱論	「治療はそれぞれの臓と経に分けて行う……汗を出す」とる。」
	十二. 素問-評熱病論	「労風の病は肺部にある……肺を傷つけると死に至る。」
	十三. 素問-咳論	1. 「五臓六腑が原因で咳が出る」という理論およびその臨床的意味 2. 「肺は人を咳き込ませる、それはなぜか……冬の終わりは腎がまず邪を受ける。」
	十四. 素問-痺論	「五臓が閉塞すると、小便が滞り、冷たい鼻水が出る。」
	十五. 素問-痿論	「陽明は、五臓六腑の海である……故に足の萎えに影響する。」
	十六. 素問-異法方宜論	「医者が病を治すのに、同じ病に異なる治療法を行っても治る、それはなぜか……そうなるのである。」
	十七. 素問-湯液醪醴論	1. 「神不使」の含まれている意味とその臨床的意味 2. 「病の治療は疾病の陰陽虚实の変化に応じて調節を行う……五臓の陽気の流れを整える。」
	十八. 素問-標本病伝論	「病において大小便の通りが悪ければ、先にそれを解決すべきで、大小便を治すことが大事である。」
	十九. 霊枢-決気	1. 「余は、人には精・気・津液・血・脈があると聞いたが、余はこれらは一種の気であろうと考える……営気を壅遏し、横道にそれないようにするもの、これを脈と言う。」 2. 「精を失うと、耳が聞こえなくなり……脈が空になる、これが症状である。」
第二単元 傷寒論	一. 弁太陽病脈証併治	1. 「太陽の病では、脈は浮き立ち、頭と首は強く痛み、邪寒がある。」 (1条)
		2. 「太陽中風は、陽浮で陰弱……桂枝湯を使う。」 (12条)
		3. 「太陽病の桂枝証に対する、軽率で間違った治療は……葛根黄芩黄连湯を使う。」 (34条)
		4. 「太陽病、頭痛、発熱……発汗がなく喘鳴がある場合、麻黄湯を使う。」 (35条)
		5. 「傷寒表が治らず、胃に水気がある……あるいは喘がある場合は、小青竜湯を使う。」 (40条)
		6. 「太陽病、発汗後、大量の発汗、胃の乾燥……五苓散を使う。」 (71条)
		7. 「傷寒が5~6日続く、中風、悪寒と発熱の繰り返し……微熱または咳が出る場合、小柴胡湯を使う。」 (96条)
		8. 「傷寒が2~3日続く、心悸亢進して煩悶する場合、小建中湯を使う。」 (102条)
		9. 「小結胸の症状が胃にあり、押すと痛く、脈が浮いて滑りやすい場合、小陷胸湯を使う。」 (138条)

単元	細目	要点
第二単元 傷寒論	一. 弁太陽病脈証併治	10. 「傷寒で発汗が解消した後、胃に不調和がある場合……生姜と瀉心湯を使う。」 (157条)
		11. 「傷寒で発汗し、嘔吐下痢をし、治まっても胃に塊があり、おくびをしても取れない場合、旋覆代赭を使う。」 (161条)
		12. 「傷寒により嘔吐し、7～8日治らず……大量の水を飲みたい場合は、白虎加人参湯を使う。」 (168条)
		13. 「傷寒による結滞脈、動悸には、炙甘草湯を使う。」 (177条)
	二. 弁陽明病脈証併治	1. 「陽明の病は、胃家実である。」 (180条)
		2. 「陽明病で、発熱発汗がある場合……体が必ず黄色くなる場合、茵陳蒿湯を使う。」 (236条)
		3. 「三陽合病で、腹部は膨満して横を向くことが困難な場合……白虎湯を使う。」 (219条)
		4. 「陽明病で遅脈になり、発汗するが悪寒はしない場合、体が必ず重くなり……胃が衰弱する、急性の下痢にならないようにする。」 (208条)
	三. 弁少陽病脈証併治	「少陽の病は、口が苦く、喉が乾き、目がくらむ。」 (263条)
	四. 弁太陰病脈証併治	1. 「太陰の病は、腹部が膨満し嘔吐し……続くと、胸と腹の間が膨張し腫瘍ができる。」 (273条)
		2. 「下痢があるが喉の乾きがない場合は、太陰に属する。寒が強いことが原因であり、温め、四逆輩を服用することが望ましい。」 (277条)
	五. 弁少陰病脈証併治	1. 「少陰病は、脈が細く微かだが、睡眠欲がある。」 (281条)
		2. 「少陰病の始まりには……麻黄細辛附子湯を使う。」 (301条)
		3. 「少陰病が2～3日以上続く場合……黄連阿膠湯を使う。」 (303条)
		4. 「少陰病が2～3日続く……または嘔吐がある場合、真武湯を使う。」 (316条)
		5. 「少陰病で、大便が水のように薄い場合……通脈四逆湯を使う。」 (317条)
		6. 「少陰病、四逆（体の末端から冷えが上がる）……または下痢が深刻な場合、四逆散を使う。」 (318条)

単元	細目	要点
第二単元 傷寒論	六. 弁厥陰病脈証併治	1. 「厥陰の病は、水を多く飲み……尿が多い。」 (326条)
		2. 「手足が冷たく、脈が細くて死にたいと思っている場合は、当帰四逆湯を使う。」 (351条)
		3. 「熱性のしぶり腹の場合、白頭翁湯を使う。」 (371条)
第三単元 金匱要略	一. 臟腑経絡先後病脈第一	1. 「問：未病の臓器に治療をする……高名な医者はそうである。他の臓器もこれにならう。」
		2. 「人は五常を守り、風気により育つ……これが皮膚臓腑の筋道である。」
		3. 「持病のある人が脳卒中になった場合、まず脳卒中を治し、それから持病を治すべきである。」
	二. 瘧濕喝病脈証治第二	1. 「太陽病で関節が痛い場合、小便を多く出す。」
		2. 「風湿、浮脈、体が重い、発汗、寒気には防己黄芪湯を使う。」
	三. 百合狐惑陰陽毒病脈証治第三	1. 「論曰：百合病は……それぞれ証に従って治療する。」
		2. 「百合病で嘔吐、下痢、発汗がないもの……百合地黄湯を使う。」
	四. 中風歴節病脈証併治第五	1. 「寸口の浮脈がはやく……舌が回らず、口からは唾液が出る。」
		2. 「手足や関節が痛み、曲がって伸ばせない場合……桂枝芍薬知母湯を使う。」
	五. 血痺虚勞病脈証併治第六	1. 「血痺、陰陽が衰弱する……黄芪桂枝五物湯を使う。」
		2. 「夢精をし下腹が緊張する場合……桂枝竜骨牡蠣湯を使う。」
六. 肺痿肺癰咳嗽上気病脈証併治第七	1. 「顔を赤くして咳き込み、喉に不快感があり、胃がもたれる場合、麦門冬湯を使う。」	
	2. 「肺の膨満感、咳、喘息……小青竜加石膏湯を使う。」	
七. 胸痺心痛短気病脈証併治第九	1. 「師曰：脈の強弱が激しい場合……陰脈が緊張している故である。」	
	2. 「胸痺の病……栝蒌薤白白酒湯を使う。」	
八. 腹満寒疝宿食病脈証併治第十	「腹部膨満感、発熱が10日続く……厚朴七物湯を使う。」	
九. 五臓風寒積聚病脈証併治第十一	「腎着の病、体が重い……甘姜苓朮湯を使う。」	

単元	細目	要点
第三単元 金匱要略	十. 痰飲咳嗽病脈証併治法第十二	<p>1. 「問：四飲は何が違うのか……息が切れ横になることができず、腫れた形をしているので、枝飲という。」</p> <p>2. 「胃に痰飲あり、胸と肋骨が膨張し、目がくらむ場合、苓桂朮甘湯を使う。」</p>
	十一. 消渴小便不利淋病脈証治第十三	「男の消渴は……腎気丸を使う。」
	十二. 水気病脈証併治第十四	1. 「師曰：病に風水、皮水があり……長く治らないと、必ず癰腫となる。」
		2. 「師曰：水病は……発汗すると治る。」
		3. 「住居の環境が悪く、体中が腫れる……越婢湯を使う。」
	十三. 黄疸病脈証併治第十五	「寸口の浮脈が遅く……脾臓が黄色くなり、瘀熱となる。」
	十四. 嘔吐噦下利病脈証治第十七	「嘔吐し腸が鳴り、胃にしこりがある場合、半夏瀉心湯を使う。」
	十五. 婦人妊娠病脈証併治第二十	1. 「瘕病のある女性が、月経が止まって3か月経たないうちに……桂枝茯苓丸を使う。」
		2. 「妊婦で腹部に疝痛があるときは、当帰芍薬散を使う。」
十六. 婦人産後病脈証治第二十一	「問曰：産後間もない女性の3つの病、1つ目は瘕瘕、2つ目は意識が朦朧とする、3つ目は便が出にくい……津液が失われ、胃が乾燥しているため、便が出にくい。」	
十七. 婦人雑病脈証併治第二十二	1. 「女性の喉に痰が出る場合、半夏厚朴湯を使う。」	
	2. 「ヒステリー症状があり、喜しくても悲しくても泣く女性……甘麦大棗湯を使う。」	
第四単元 温病学	一. 温熱論	1. 「温病の発病初期において、邪気はまず肺を犯す……治療は傷寒とは大きく異なる。」
		2. 「傷寒の邪が表面に残る場合……必ず孤立状態となる。」
		3. 「そうでなければ、温暖の間に風が生じて乾燥し……これを以て弁証する。」
		4. 「前述の辛涼散風……急ぎ透斑が必要である。」
		5. 「斑の熱が引かない場合、胃液がなく……下方の臓器に影響を与えるだろう。」
		6. 「その邪気が常に気分に流れているならば……知っていなければならない。」
		7. 「気病が血分にうつらない……おこりになる。」
		8. 「一般に、衛分の段階に入った気は……逆に慌てる。」
		9. 「呉の地は湿邪の害が最も広い範囲に起き……雑証と比較すると、異なる点がある。」
		10. 「三焦は外からは治せず……大便が乾燥し水分がない。」

単元	細目	要点
第四単元 温病学	二. 湿熱病篇	1. 「湿熱証は、悪寒から始まる……舌が白く、口が乾くが飲み物を飲まない。」
		2. 「湿熱証、悪寒はするが発汗しない……頭痛がない場合、羌活を除く。」
		3. 「湿熱証、悪寒と発熱……悪寒のない場合、蒼朮を除く。」
		4. 「湿熱証、おこりのような悪寒と熱……乾菖蒲、六一散など。」
		5. 「湿熱証、数日後に胃脘部に不快感がある場合……蘆尖、冬瓜仁など。」
		6. 「湿熱証、初期に発熱……佩蘭葉、六一散など。」
		7. 「湿熱証、舌根が白い……綠豆衣、六一散など。」
	三. 温病条弁	1. 「温病：風温あり、温熱あり……冬温あり、おこりあり。」（上焦1条）
		2. 「太陰風温、温熱……湿温、おこりは、この例に含まず。」（上焦4条）
		3. 「太陰温病で、血が頭から溢れ出る場合……清絡育陰法を用いてよい。」（上焦11条）
		4. 「太陰温病、寸口の脈が大きい。舌が赤く乾き、喉の渴きが激しい、喉の渴きがなく、熱が籠る場合、清営湯去黄連を使う。」（上焦15条）
		5. 「邪が心膜に入り、舌がうまく動かない場合、牛黄丸、紫雪丹を使う。」（上焦17）
		6. 「頭痛悪寒、重苦しい体の痛み……長夏深秋冬日に同じく、三仁湯を使う。」（上焦43条）
		7. 「顔と目が赤く、声が重く濁っている……湿温、マラリアはこの症例には含まれない。」（中焦1条）
		8. 「陽明温病、便秘となり……さらに便秘が続く場合、増液承気湯を使う。」（中焦17条）
		9. 「陽明温病、発汗なし、実証は激しくない……冬地三黄湯を使う。」（中焦29条）
		10. 「風温、温熱、温疫……加減した復脈湯を使う。」（下焦1条）
		11. 「少陰温病は、真陰が消耗し、陽気が再び燃え上がる……黄連阿膠湯を使う。」（下焦11条）

単元	細目	要点
第四単元 温病学	三. 温病条弁	12. 「夜暑く朝涼しく、汗をかかずに熱が引く。熱が陰から来る場合は、青蒿鱉甲湯を使う。」 (下焦12条)
		13. 「外気の変化により病を感じた場合は、將軍のように果敢に治す……下焦は秤の分銅のように治す(重くなければ、沈まない)。」(諸説)

三. 中医学臨床

(一) 中医内科学

单元	細目	要点
第一单元 肺系の病証	一. 感冒	1. 概要
		2. 病因・病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	二. 咳	1. 概要
		2. 病因・病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	三. 哮喘	1. 概要
		2. 病因・病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	四. 喘証	1. 概要
		2. 病因・病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
五. 肺壞疽	1. 概要	
	2. 病因・病態	
	3. 診断と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
	5. 転帰予後	
六. 肺結核	1. 概要	
	2. 病因・病態	
	3. 診断と鑑別診断	

単元	細目	要点	
第一単元 肺系の病証	六、肺結核	4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
		6. 予防と保養・看護	
	七、肺の膨張	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 診断と鑑別診断	
		4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
	八、肺痿	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 診断と鑑別診断	
		4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
	第二単元 心臓系の病証	一、動悸	1. 概要
			2. 病因と病態
3. 診断と鑑別診断			
4. 弁証論治			
5. 転帰予後			
二、胸痺		1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 診断と鑑別診断	
		4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
		6. 予防と保養・看護	
三、心不全		1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 診断と鑑別診断	
		4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
		6. 予防と保養・看護	
四、不眠		1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 診断と鑑別診断	
		4. 弁証論治	
		5. 転帰予後	
		6. 予防と保養・看護	

単元	細目	要点
第三単元 脳系の病証	一、頭痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 頭痛部位に基づく経絡の所属判断
		5. 弁証論治
		6. 頭痛部位に基づく「引経薬」の選択
		7. 転帰予後
	二、めまい	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	三、中風（脳溢血）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	四、発狂	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰
		6. 保養・看護
	五、てんかん	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
六、痴呆	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 診断と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
	5. 予防と保養・看護	

単元	細目	要点
第四単元 脾臓・胃の病証	一、胃痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	二、胃つかえ	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	三、嘔吐	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	四、嚥下障害	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	五、しゃっくり	1. 概要
2. 病因と病態		
3. 診断と鑑別診断		
4. 弁証論治		
六、腹痛	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 診断と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
	5. 転帰予後	
	6. 予防と保養・看護	

単元	細目	要点
第四単元 脾臓・胃の病証	七、下痢	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	八、赤痢	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	九、便秘	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
第五単元 肝臓・胆嚢の病証	一、脇痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	二、黄疸	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	三、積証（固定部位の痛み）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 積と聚の主な特徴および病態の相違点・共通点
		5. 弁証論治
		6. 転帰予後

単元	細目	要点
第五単元 肝臓・胆嚢の病証	四、聚証（不定部位の痛み）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
	五、鼓腸	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	六、癭（首にできるこぶ）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	七、マラリア	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	第六単元 腎臓系の病証	一、浮腫
2. 病因と病態		
3. 診断と鑑別診断		
4. 弁証論治		
5. 転帰予後		
6. 予防と保養・看護		
二、淋証		1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第六単元 腎臓系の病証	三、排尿障害	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. よく用いられる外治法
		6. 転帰予後
	四、陰萎	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
第七単元 気・血・津液の病証	一、鬱証（神経症）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	二、血証（血行障害）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	三、痰飲	1. 概要
		2. 分類
		3. 病因と病態
		4. 診断と鑑別診断
		5. 弁証論治
		6. 転帰予後
	四、消渴（糖尿病の症状の一つ）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第七単元 気・血・津液の病証	五、汗証（多汗症）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
	六、内傷（身心の過労や不摂生から起こる症状）による発熱	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
	七、心身の疲労衰弱	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
	八、がん	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 保養・看護
九、厥証（一過性意識障害）	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 診断と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
第八単元 肢体経絡の病証	一、痺証（肢体や関節のしびれ・疼痛）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 予防と保養・看護
	二、痿証（筋肉が萎えて動かなくなる）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 転帰予後
		6. 保養・看護

単元	細目	要点
第八単元 肢体経絡の病証	三、顫証（震え）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治
	四、腰痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断と鑑別診断
		4. 弁証論治

(二) 中医外科学

単元	細目	要点
第一単元 中医外科疾患の病因と病態	一、病原性因子	1. 気候による疾患
		2. 情緒・内傷による疾患
		3. 食生活の乱れによる疾患
		4. 外傷による疾患
		5. 過労・虚損による疾患
		6. 特殊な毒への感作による疾患
		7. 痰飲・瘀血による疾患
	二、発病の機序	1. 邪正盛衰（邪気（疾病の原因）と正気（疾病に対する抵抗力の総称）の強さ）
		2. 気・血の停滞
		3. 経絡の閉塞
4. 内臓の調和喪失		
第二単元 中医外科疾患の病因・症状分析	一、弁病	1. 弁病の概念
		2. 弁病の方法
	二、陰陽による病因・症状分析	1. 局部症状による陰陽の弁別
		2. 陰陽による病因・症状分析において注意すべき問題
	三、部位による病因・症状分析	1. 体の上部に発生する疾患の病因と特徴
		2. 体の中部に発生する疾患の病因と特徴
		3. 体の下部に発生する疾患の病因と特徴
	四、経絡による病因・症状分析	1. 十二経脈の気・血の量と外科疾患の関係
		2. 引経薬
	五、局部症状による病因・症状分析	1. 腫物の弁別
		2. しこり・結節の弁別
		3. 痛みの弁別
		4. 痒みの弁別
		5. 膿の弁別
		6. 潰瘍の弁別
7. 出血の弁別		
第三単元 中医外科疾患の治療法	一、内治法	1. 外科内治法の3つの一般原則である消（消散）、托（排出）、補（補填）の定義および適応証
		2. 清熱法、温通法、去痰法、和營法、内托法の代表的処方および応用

単元	細目	要点
第三単元 中医外科疾患の治療法	二、外治法	1. 膏薬、油膏の臨床応用
		2. 湿布薬の適応証、用法および注意点
		3. 混合薬の種類および臨床応用
		4. 切開法の適応証および具体的な方法
		5. 石針法、控刺法、シートン法、結紮法の適応証および用法
		6. ドレナージ法、ガーゼドレナージ法、カップリング法、鍼灸法、燻蒸法、温罨法、湿布・浸漬法、冷凍法、レーザー療法の適応証、用法および注意点
第四単元 瘡瘍	一、癰	1. 癰の定義と特徴
		2. 癰の病因と病態
		3. 癰の臨床症状
		4. 癰の治療方法
	二、疔	1. 疔の特徴と種類
		2. 顔面部疔瘡の定義と特徴
		3. 顔面部疔瘡の病因と病態
		4. 顔面部疔瘡の臨床症状および癰との鑑別
		5. 顔面部疔瘡の治療
		6. 手足部疔瘡の臨床症状
		7. 手足部疔瘡の成膿期における切開ドレナージ要件
		8. 紅絲疔の定義、特徴および治療
	三、癰	1. 癰の概念と特徴
		2. 癰の病因と病態
		3. 癰の病因・症状分析および治療法判断方法
		4. 頸部癰の特徴と治療
	四、癰（皮膚組織の急性びまん性化膿性感染症）	1. 癰の概念と特徴
		2. 喉部癰、臀部癰の臨床的特徴と治療
	五、有頭疽	1. 有頭疽の特徴
		2. 有頭疽の病因と病態
		3. 有頭疽の臨床症状
		4. 有頭疽の治療
	六、流注（気・血の循環）	1. 流注の特徴
		2. 流注の病因と病態
3. 流注の臨床症状		
4. 流注の治療		

単元	細目	要点
第四単元 瘡瘍	七、丹毒	1. 丹毒の臨床的特徴および各部位の丹毒の病名
		2. 丹毒の病因と病態
		3. 丹毒の内・外治法
	八、吹出物と内陥	1. 吹出物と内陥の概念および病因と病態
		2. 内陥の分類
		3. 吹出物と内陥の治療原則
第五単元 乳房の疾患	一、概要	1. 乳房と臓腑経絡の関係
		2. 乳房のしこり検査法
	二、乳癰	1. 乳癰の病因と病態
		2. 乳癰の臨床症状
		3. 乳癰の治療
		4. 乳癰の予防と保養・看護
	三、瘰癧性乳癰	1. 瘰癧性乳癰の概念と特徴
		2. 瘰癧性乳癰の鑑別診断
	四、乳癖（乳房に停滞不散のしこりが生じる）	1. 乳癖の概念と特徴
		2. 乳癖の病因と病態
		3. 乳癖の臨床症状
		4. 乳癖の病因・症状分析および治療法判断
	五、乳核（乳房に硬い核粒が生じる）	1. 乳核の特徴と臨床症状
		2. 乳核の病因・症状分析および治療法判断
	六、乳岩（乳がん）	1. 乳岩の発病状況と特徴
		2. 乳岩の診断
		3. 乳岩の病因・症状分析と分類治療
		4. 乳岩と乳癖、乳核との鑑別
第六単元 瘰	一、気瘰（単純性甲状腺腫）	1. 気瘰の病因と病態
		2. 気瘰の臨床症状
		3. 気瘰の内治法と予防
	二、肉瘰（局所的かつ柔らかい瘰）	1. 肉瘰の概念、特徴
		2. 肉瘰の病因と病態
		3. 肉瘰の病因・症状分析および治療法判断
	三、瘰癧	1. 瘰癧の意味と特徴
		2. 瘰癧の診断
		3. 瘰癧の内・外治法
	四、石瘰（硬い瘰）	1. 石瘰の意味と特徴
		2. 石瘰の病因と病態および診断
		3. 石瘰の治療

単元	細目	要点
第七単元 瘤、がん	一、脂瘤	1. 脂瘤の概念
		2. 脂瘤の診断
		3. 脂瘤の治療
	二、血瘤	1. 血瘤の概念
		2. 血瘤の診断
		3. 血瘤の治療
	三、肉瘤	肉瘤の概念および臨床症状の特徴
	四、失栄（頸部に石のように硬いしこりがある状態）	1. 失栄の概念
		2. 失栄の病因と病態
		3. 失栄の臨床症状
4. 失栄の病因・症状分析および治療法判断方法		
第八単元 皮膚および性感染症	一、概要	1. 皮膚および性感染症の病因と病態
		2. 皮膚および性感染症の病因・症状分析
		3. 皮膚および性感染症の治療法
	二、熱瘡	1. 熱瘡の病因と病態
		2. 熱瘡の診断
		3. 熱瘡の治療
	三、帯状疱疹	1. 帯状疱疹の概念と特徴
		2. 帯状疱疹の病因・症状分析および治療法判断
	四、疣贅	1. 各疣贅の特徴と好発部位
		2. 尋常性疣贅、扁平疣贅、伝染性軟疣腫の治療
	五、白癬	1. 頭部白癬、手足白癬、体部白癬および白斑の臨床的特徴と診断
		2. 白癬の治療
	六、脂漏性皮膚炎	1. 脂漏性皮膚炎の概念と特徴
		2. 脂漏性皮膚炎の病因・症状分析および治療法判断
	七、円形脱毛症	1. 円形脱毛症の概念と特徴
		2. 円形脱毛症の病因・症状分析および治療法判断
	八、黄水瘡	1. 黄水瘡の概念と特徴
		2. 黄水瘡の病因・症状分析および治療法判断
	九、虫刺性皮膚炎	1. 虫刺性皮膚炎の概念と特徴
		2. 虫刺性皮膚炎の病因・症状分析および治療法判断
十、疥瘡	1. 疥瘡の病因と病態	
	2. 疥瘡の臨床的特徴	
	3. 疥瘡の治療と予防	

単元	細目	要点
第八単元 皮膚および性感染症	十一、湿疹	1. 湿疹の臨床的特徴
		2. 湿疹の病因と病態
		3. 湿疹の病因・症状分析および治療
		4. 乳児湿疹の病因、症状分析および治療法判断
	十二、接触性皮膚炎	1. 接触性皮膚炎の診断要点
		2. 接触性皮膚炎と急性湿疹、顔面丹毒との鑑別
		3. 接触性皮膚炎の治療
	十三、薬疹	1. 薬疹の病因と病態
		2. 薬疹の診断
		3. 薬疹の治療
		4. 薬疹の予防と保養・看護
	十四、蕁麻疹	1. 蕁麻疹の病因と病態
		2. 蕁麻疹の臨床症状と治療
	十五、神経性皮膚炎	1. 神経性皮膚炎による皮膚損傷の特徴
		2. 神経性皮膚炎の治療
	十六、乾癬	1. 乾癬（尋常性）による皮膚損傷の特徴
		2. 乾癬（尋常性）の病因・症状分析および治療
	十七、淋病	1. 淋病の病因と病態
		2. 淋病の診断
		3. 淋病の病因・症状分析および治療法判断
4. 淋病のその他の治療方法		
十八、梅毒	1. 梅毒の病因と病態	
	2. 梅毒の診断	
	3. 梅毒の病因・症状分析および治療法判断	
	4. 梅毒のその他の治療方法	
十九、尖圭コンジローマ	1. 尖圭コンジローマの病因と病態	
	2. 尖圭コンジローマの診断	
	3. 尖圭コンジローマの鑑別診断	
	4. 尖圭コンジローマの病因・症状分析および治療法判断	
	5. 尖圭コンジローマのその他の治療方法	
第九単元 肛門・直腸の疾患	一、痔	1. 痔の概念と分類
		2. 内痔核の病因と病態、診断と治療
		3. 血栓性外痔核の診断と治療
		4. 混合痔核の診断と治療

単元	細目	要点
第九単元 肛門・直腸の疾患	二、肛門ポリープ	1. 肛門ポリープの概念
		2. 肛門ポリープの病因と病態
		3. 肛門ポリープの診断と鑑別診断
		4. 肛門ポリープの治療
	三、肛門陰窩炎	1. 肛門陰窩炎の合併症
		2. 肛門陰窩炎の病因と病態、主な症状および手術治療の適応証
	四、肛癰	1. 肛癰の定義および病因と病態
		2. 肛癰の診断
		3. 肛癰の治療
	五、痔瘻	1. 痔瘻の病因と病態
		2. 痔瘻の診断と分類
		3. 痔瘻のシートン療法および切開療法の適応証、禁忌証および治療原理
		4. 痔瘻手術の注意事項
	六、裂肛	1. 裂肛の定義および病因と病態
		2. 裂肛の診断
		3. 裂肛の病因・症状分析および治療法判断
		4. 裂肛手術治療の各方法およびその適応証
	七、脱肛	1. 脱肛の定義および病因と病態
		2. 脱肛の症状と分類
		3. 直腸粘膜脱と内痔核脱出との鑑別
		4. 脱肛の内治法
		5. 脱肛のその他の療法
	八、肛門がん	1. 肛門がんの主な症状およびよく用いられる検査方法
		2. 肛門がんの鑑別診断
3. 肛門がんの治療		
第十単元 男性の泌尿器疾患	一、子癰（精巣および精巣上体の炎症性感染症）	1. 子癰の概念
		2. 子癰の病因と病態、診断および治療
	二、子痰	1. 子痰の概念
		2. 子痰の病因と病態、診断および治療
	三、陰茎痰核（こぶ状のしこり）	1. 陰茎痰核の臨床症状
		2. 陰茎痰核の病因・症状分析および治療法判断

単元	細目	要点	
第十単元 男性の泌尿器疾患	四、尿路結石症	1. 尿路結石症の病因と病態	
		2. 尿路結石症の診断	
		3. 尿路結石症の治療方法	
	五、前立腺炎	1. 前立腺炎の病因と病態	
		2. 前立腺炎の診断	
		3. 前立腺炎の病因・症状分析および治療法判断	
	六、排尿障害	1. 排尿障害の診断	
		2. 排尿障害の病因・症状分析および治療法判断	
		3. 排尿障害のその他の療法	
第十一単元 末梢血管疾患	一、深部静脈血栓症	1. 深部静脈血栓症の意味と特徴	
		2. 深部静脈血栓症の病因と病態	
		3. 深部静脈血栓症の診断	
		4. 深部静脈血栓症の病因・症状分析および治療法判断	
	二、急性静脈血栓症	1. 急性静脈血栓症の病因と病態	
		2. 急性静脈血栓症の臨床症状と一般的な種類	
		3. 急性静脈血栓症の病因・症状分析および治療法判断	
	三、筋瘤	1. 筋瘤の定義と特徴	
		2. 筋瘤の治療方法	
	四、下腿潰瘍	1. 下腿潰瘍の病因と病態	
		2. 下腿潰瘍の局部病因・症状分析	
		3. 下腿潰瘍の治療	
	五、脱疽	1. 脱疽の定義、特徴および病因と病態	
		2. 脱疽の診断と鑑別診断	
		3. 脱疽の病因・症状分析および治療法判断	
		4. 脱疽のその他の療法	
	第十二単元 その他の外科疾患	一、凍瘡	1. 凍瘡の臨床症状
			2. 重篤な全身凍瘡の応急処置および復温方法
二、熱傷		1. 熱傷面積の計算方法および熱傷深度の分類	
		2. 重度熱傷の病因・症状分析・分類、治療原則	
		3. 中小面積の熱傷創面の正確な処理	
三、毒蛇咬傷		1. 中国における一般的な毒蛇の種類、毒蛇と無毒蛇の形態および歯型の違い	
		2. 毒蛇咬傷の病因と病態	
		3. 毒蛇咬傷の治療措置	

単元	細目	要点
第十二単元 その他の外科疾患	四、破傷風	1. 破傷風の病因と病態
		2. 破傷風の臨床症状
		3. 破傷風の治療原則
	五、腸癰（虫垂炎）	1. 腸癰の病因と病態
		2. 腸癰の診断
		3. 腸癰の病因・症状分析および治療法判断
		4. 腸癰のその他の療法

(三) 中医婦人科学

単元	細目	要点
第一単元 序論	序論	各時代における中医婦人科の主な著作および中医婦人科学の発展に対する重要な影響
第二単元 女性の生殖器	一、外生殖器	1. 外陰部の位置
		2. 外陰部の機能
	二、内生殖器	1. 膣の位置および機能
2. 子宮口の位置および機能		
3. 子宮の位置・形態および機能と特性		
第三単元 女性の生殖生理	一、女性の一生の各時期における生理的特徴	1. 胎児期
		2. 新生児期
		3. 児童期
		4. 思春期
		5. 性的成熟期
		6. 周閉経期
		7. 老年期
	二、月経の生理	1. 月経の生理現象
		2. 月経発生の機序
		3. 月経の周期変化と調節
		4. 閉経の機序
	三、帯下の生理	1. 帯下の生理現象および作用
		2. 帯下発生の機序
	四、妊娠の生理	1. 受胎の機序
		2. 妊娠の生理現象
		3. 出産予定日の計算方法
	五、産褥の生理	1. 出産の前兆
		2. 正期産現象
		3. 産褥期の生理
	六、授乳の生理	授乳の生理
	第四単元 婦人科疾患の病因と病態	一、病因
2. 情緒的要因		
3. 生活的要因		
4. 体質的要因		

単元	細目	要点	
第四単元 婦人科疾患の病因と病態	二、病態	1. 臓器の機能不全	
		2. 気・血の失調	
		3. 衝脈・任脈・督脈・帯脈の損傷	
		4. 胞宮（子宮）、胞脈、胞絡（子宮に分布する脈絡）の損傷	
		5. 腎-天癸（生殖のエネルギー）-衝脈・任脈-胞宮軸の失調	
第五単元 婦人科疾患の診断と病因・症状分析	一、四診	1. 問診	
		2. 望診（視覚による診断）	
		3. 聞診（聴覚と嗅覚による診断）	
		4. 切診（触診）	
	二、病因・症状分析の要点	1. よく用いられる病因・症状分析方法	
		2. 月経異常、帯下異常、妊娠異常、産後異常の病因・症状分析の要点	
		3. 弁病と病因・症状分析	
第六単元 婦人科疾患の治療	一、よく用いられる内治法	1. 臓器の調整・補填	
		2. 気・血の調整	
		3. 温経散寒（体を温め寒邪を除くこと）	
		4. 利湿（体内の余分な水分を排出させること）・去痰	
		5. 衝脈・任脈・督脈・帯脈の調整	
		6. 胞宮の調整	
		7. 腎-天癸-衝任-胞宮生殖軸の調節	
	二、よく用いられる外治法	1. 座浴	
		2. 外陰、膻の洗浄	
		3. 膻坐薬	
		4. 薬剤貼付	
		5. 腔内注入	
		6. 直腸導入	
		7. 漢方薬のイオン導入	
		8. 介入治療	
	三、中医婦人科の応急治療	1. 血崩証（大量の不正出血）	
		2. 痛証	
		3. 高熱証	
		4. 厥脱証（顔面蒼白・昏倒）	
	第七単元 月経異常	一、概要	1. 月経異常の定義
			2. 月経異常の病因と病態
3. 月経異常の診断			
4. 月経異常の病因・症状分析			

単元	細目	要点
第七単元 月経異常	一、概要	5. 月経異常の治療原則
		6. 治療中に注意すべき問題
	二、頻発月経	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 頻発月経と中間期出血との鑑別
		4. 弁証論治
	三、月経遅延	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 月経遅延と妊娠早期との鑑別
		4. 弁証論治
	四、月経不順	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
	五、過多月経	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	六、過少月経	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 過少月経と妊娠月経との鑑別
		4. 弁証論治
	七、過長月経	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	八、中間期出血	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
	九、不正出血	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 不正出血の診断と鑑別診断
		4. 不正出血の治療原則および塞流（出血を止める）、澄源（病根を取り除く）、復旧（気血を補う）の意味
		5. 応急処置ならびに病因・症状分析および治療法判断
6. 不正出血止血後の治療		
7. 予防と保養・看護		

単元	細目	要点
第七単元 月経異常	十、閉経	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 閉経の診断
		4. 鑑別診断
		5. 閉経の治療原則
		6. 弁証論治
	十一、月経痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 病因・症状分析の要点
		4. 月経痛発作時の応急処置
		5. 弁証論治
		6. 予防と保養・看護
	十二、月経時の乳房痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	十三、月経時の頭痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	十四、月経時の感冒	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	十五、月経時の身体痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
十六、月経時の下痢	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	
十七、月経時の浮腫	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	
十八、月経時の鼻血	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	

単元	細目	要点	
第七単元 月経異常	十九、月経時の口糜	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
	二十、月経時の蕁麻疹	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
	二十一、月経時の発熱	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
	二十二、月経時の情緒異常	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
	二十三、閉経前後の諸症状	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
		4. 予防と保養・看護	
	二十四、月経再開	1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 鑑別診断	
		4. 弁証論治	
	第八単元 帯下異常	一、概要	1. 帯下異常の定義
			2. 帯下異常の治療原則
		二、帯下過多	1. 概要
			2. 病因と病態
3. 病因・症状分析の要点			
4. 弁証論治			
5. 外治法			
6. 予防と保養・看護			
三、帯下過少		1. 概要	
		2. 病因と病態	
		3. 弁証論治	
第九単元 妊娠異常		一、概要	1. 妊娠異常の定義
	2. 妊娠異常の範囲		
	3. 妊娠異常の診断		

単元	細目	要点
第九単元 妊娠異常	一、概要	4. 妊娠異常の発病機序
		5. 妊娠異常の治療原則
		6. 妊娠期間における投薬の注意事項
	二、妊娠悪阻	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 妊娠悪阻の保養
	三、子宮外妊娠	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 子宮外妊娠の診断と鑑別診断
		4. 子宮外妊娠の臨床症状
		5. 応急処置および手術適応証
		6. 弁証論治
		7. 予防と保養・看護
	四、胎漏（妊娠初期に少量の出血が不規則的に現れる）、胎動不安（腰や腹部の痛み少量の出血が伴う）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 流産の鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	五、人工妊娠中絶、流産	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	六、習慣性流産	1. 概要
		2. 病因と病態
3. 診断		
4. 弁証論治		
5. 予防と保養・看護		
七、稽留流産	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	

単元	細目	要点
第九単元 妊娠異常	八、腹部の異常膨脹	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	九、妊娠浮腫	1. 概要
		2. 子気、皴脚、脆脚（妊娠期の下肢の浮腫）の意味
		3. 病因と病態
		4. 弁証論治
	十、目眩	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
		4. 予防と保養・看護
	十一、子癇	1. 概要
		2. 子癇の診断
		3. 応急処置の原則
	十二、妊娠中の排尿痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	十三、妊娠中の排尿困難	1. 概要
2. 病因と病態		
3. 弁証論治		
第十単元 産後異常	一、概要	1. 産後異常の定義
		2. 産後の「三衝」「三病」「三急」の意味
		3. 産後異常の病因と病態
		4. 産後異常の診断と産後の「三審」
		5. 産後異常の治療原則
		6. 産後投薬の「三禁」
		7. 産後異常の予防と保養・看護
	二、産後の血量	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 応急処置
		5. 予防と保養・看護
	三、産褥熱	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断

単元	細目	要点
第十単元 産後異常	三、産褥熱	4. 応急処置
		5. 弁証論治
		6. 予防と保養・看護
	四、産後の腹痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	五、産後の身体痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
	六、産後の悪露継続	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	七、母乳分泌不足	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	八、産後うつ	1. 概要
2. 病因と病態		
3. 弁証論治		
九、産後の排尿困難	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	
十、産後の排尿痛	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 弁証論治	
第十一単元 婦人科の慢性疾患	一、概要	1. 婦人科慢性疾患の定義
		2. 婦人科慢性疾患の範囲
		3. 病因と病態
		4. 慢性疾患の治療

単元	細目	要点
第十一単元 婦人科の慢性疾患	二、癥瘕（腹部のふくれあがり）	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 鑑別診断
		4. 弁証論治
	三、骨盤腔炎	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 骨盤腔炎の診断
		4. 鑑別診断
		5. 弁証論治
		6. 予防と保養・看護
	四、不妊症	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 不妊症の診断
		4. 弁証論治
		5. 弁病と病因・症状分析の組み合わせ
		6. 予防と保養・看護
	五、陰部搔痒	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断
		4. 弁証論治
		5. 陰部搔痒の外治法
	六、陰瘡	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 弁証論治
	七、陰挺	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 子宮脱の診断と分度
		4. 弁証論治
5. 予防と保養・看護		
第十二単元 産児制限	一、避妊	1. 道具による避妊
		2. 薬物による避妊
	二、人工中絶	1. 人工中絶の適応証および禁忌証
		2. 人工中絶合併症の診断と予防
		3. 薬物中絶の適応証および禁忌証
	三、経腹的卵管結紮術	不妊手術の適応証および禁忌証

単元	細目	要点
第十三単元 女性の生殖機能の調節と周期的変化	一、卵巣の機能および周期的変化	1. 卵巣機能の周期的変化
		2. 卵巣から分泌されるホルモンおよびその機能
	二、子宮内膜の周期的変化	1. 増殖期
		2. 分泌期
		3. 月経期
	三、視床下部-下垂体-卵巣軸の相互関係	1. フィードバック作用
2. 調節機能		
第十四単元 産婦人科の特殊検査とよく用いられる診断技術	一、婦人科検査	1. 双合診
		2. 三合診（直腸・膣・腹部診察）
	二、婦人科の特殊診断技術	1. 基礎体温測定
		2. 膣剥離細胞検査
		3. 子宮頸管粘液検査
		4. 一般的な女性内分泌ホルモン測定
		5. 生体組織検査
		6. 搔爬診
		7. 後膣円蓋穿刺
		8. 卵管疎通性検査
		9. 超音波検査
10. 子宮鏡検査		
11. 腹腔鏡検査		

(四) 中医小児科学

単元	細目	要点	
第一単元 小児科学の基礎	一、小児の年齢分類	年齢分類の基準および特徴	
	二、小児の成長・発育	1. 体重の測定方法、正常値および臨床的意義	
		2. 身長の測定方法、正常値および臨床的意義	
		3. 泉門の測定方法、閉鎖時期および臨床的意義	
		4. 頭囲の測定方法、正常値および臨床的意義	
		5. 胸囲の測定方法、正常値および臨床的意義	
		6. 乳歯および永久歯の萌出時期、本数の正常値および臨床的意義	
		7. 呼吸、脈拍、血圧の正常値および加齢との関係	
		8. 知覚、運動、言語、性格の発育の特徴	
	三、小児の生理的、病因的、病理的特徴	1. 生理的特徴および臨床的意義	
		2. 病因的特徴および臨床的意義	
		3. 病理的特徴および臨床的意義	
	四、小児科における四診の特徴	1. 小児科における四診の特徴	
		2. 望診の特徴および臨床的意義	
		3. 聞診の特徴および臨床的意義	
		4. 問診の特徴および臨床的意義	
		5. 切診の特徴および臨床的意義	
	五、小児科における病因・症状分析の概要	小児科でよく用いられる病因・症状分析方法	
六、小児科における治療法の概要	1. 小児科でよく用いられる内治法における投薬原則、投与量および方法		
	2. 小児科でよく用いられる内治法およびその適応病証		
	3. 小児科でよく用いられる外治法およびその臨床応用		
第二単元 児童の保健	一、胎児期の保健	妊娠期間におけるケアの主な内容	
	二、乳児期の保健	1. 新生児の特殊な生理現象	
		2. 新生児ケアの主な措置	
		3. 育児方式および選択の原則	
		4. 母乳育児の方法、利点、注意事項および適切な断乳時期	
		5. ミルク育児の方法	
		6. 混合育児の方法	
		7. 補完食の原則	

単元	細目	要点
第三単元 新生児の疾患	一、虚弱体質	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	二、浮腫性硬化症	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	三、新生児黄疸	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 病理的黄疸診断および鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	第四単元 肺系の病証	一、感冒
2. 病因と病態		
3. 診断要点と鑑別診断		
4. 弁証論治		
二、扁桃腺炎		1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
三、咳嗽		1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
四、肺炎咳喘息		1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 心不全を合併した肺炎の診断と治療
		6. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第四単元 肺系の病証	五、喘息	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	六、反復性呼吸器感染症	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
第五単元 脾臓系の病証	一、鵝口瘡	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	二、口内炎	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 薬物による外的治療
		6. 予防と保養・看護
	三、下痢	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	四、食欲不振	1. 概要
		2. 病因と病態
3. 診断要点と鑑別診断		
4. 弁証論治		
5. 予防と保養・看護		

単元	細目	要点
第五単元 脾臓系の病証	五、消化不良	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	六、疝証	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	七、腹痛	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	八、便秘	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
九、栄養性鉄欠乏性貧血	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 診断要点と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
	5. 西洋医学的治療	
	6. 予防と保養・看護	
第六単元 心臓・肝臓の病証	一、夜泣き	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
	二、汗証	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第六単元 心臓・肝臓の病証	三、ウイルス性心筋炎	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護
	四、注意欠陥・多動性障害	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	五、チック症	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	六、驚風	1. 急性驚風と慢性驚風の概要
		2. 急性驚風と慢性驚風の病因と病態
		3. 急性驚風と慢性驚風の診断要点
		4. 急性驚風と慢性驚風の病因・症状分析および治療法判断
		5. 急性驚風の西洋医学的治療
6. 急性驚風と慢性驚風の予防と保養・看護		
七、てんかん	1. 概要	
	2. 病因と病態	
	3. 診断要点と鑑別診断	
	4. 弁証論治	
	5. 西洋医学的治療	
	6. 予防と保養・看護	
第七単元 腎臓系の病証	一、浮腫	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 急性糸球体腎炎とネフローゼ症候群の診断要点と鑑別診断
		4. 浮腫の常証（通常の病証）と変証（変則的な病証）の病因・症状分析および治療法判断
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第七単元 腎臓系の病証	二、頻尿	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 泌尿器系感染症および日中頻尿症候群の診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	三、遺尿	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	四、発育不全	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
第八単元 感染症	一、麻疹	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 麻疹の順証（治せる病）と逆証（不治の病）の病因・症状分析および治療法判断
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	二、水いぼ	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
	三、風疹	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	四、猩紅熱	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 猩紅熱の診断要点および発疹性疾患の鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第八単元 感染症	五、水痘	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	六、手足口病	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	七、おたふく風邪	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. その他の療法
		6. 予防と保養・看護
	八、百日咳	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
5. 西洋医学的治療		
6. 予防と保養・看護		
第九単元 虫証	一、回虫症	1. 概要
		2. 診断の要点
		3. 弁証論治
		4. その他の療法
		5. 予防と保養・看護
	二、蟯虫症	1. 概要
		2. 診断の要点
		3. 弁証論治
		4. その他の療法
		5. 予防と保養・看護

単元	細目	要点
第十単元 その他の病証	一、夏季熱	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 予防と保養・看護
	二、紫斑	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. アレルギー性紫斑病と免疫性血小板減少症の診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護
	三、皮膚粘膜リンパ節症候群	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護
	四、ビタミンD欠乏性くる病	1. 概要
		2. 病因と病態
		3. 診断要点と鑑別診断
		4. 弁証論治
		5. 西洋医学的治療
		6. 予防と保養・看護
	五、伝染性単核球症	1. 概要
		2. 病因と病態
3. 診断要点と鑑別診断		
4. 弁証論治		
5. 西洋医学的治療		

(五) 鍼灸学

単元	細目	要点	
第一単元 経絡系統	一、経絡系統の構成	経絡系統の構成	
	二、十二経脈	1. 十二経脈の名称	
		2. 十二経脈の分布法則	
		3. 十二経脈の属絡表裏関係	
		4. 十二経脈と臓腑器官の連動	
		5. 十二経脈の循環走向と連結法則	
		6. 十二経脈の気・血循環の流れ	
	三、奇経八脈	1. 奇経八脈の名称	
		2. 奇経八脈の循環分布	
		3. 奇経八脈の作用および臨床的意義	
	四、十五絡脈	1. 十五絡脈の分布	
		2. 十五絡脈の作用および臨床的意義	
	五、十二経別	1. 十二経別の分布	
		2. 十二経別の作用および臨床的意義	
六、十二経筋	1. 十二経筋の分布		
	2. 十二経筋の作用および臨床的意義		
七、十二皮部	1. 十二皮部の分布		
	2. 十二皮部の作用および臨床的意義		
第二単元 経絡の作用および経絡学説の臨床応用	一、経絡の作用	1. 臓器の連携、内と外の接続	
		2. 気・血の巡行、陰陽の調整	
		3. 病気への抵抗、症状の反映	
		4. 感応の伝達、虚実の調整	
	二、経絡学説の臨床応用	1. 診断面	
		2. 治療面	
第三単元 腧穴の分類	腧穴の分類	十四経穴、経外奇穴、阿是穴	
第四単元 腧穴の主治特徴および法則	一、主治特徴	1. 近治作用	
		2. 遠治作用	
		3. 特殊作用	
	二、主治法則	1. 各経穴の主治法則	
2. 各部位の主治法則			
第五単元 特定穴	特定穴	1. 特定穴の分類および概念 2. 五輸穴、原穴、絡穴、背俞穴、募穴、八脈交会穴、八会穴、郄穴、下合穴、交会穴の内容および臨床応用	

単元	細目	要点
第六単元 腧穴の位置決定方法	腧穴の位置決定方法	1. 骨度分寸定位法（特定の長骨を等分した部分の長さなどを1寸として、経穴の位置の測定単位とした位置決定法）
		2. 体表解剖標誌定位法（体表のさまざまな解剖学的標誌点による経穴の位置決定法）
		3. 手指同身寸定位法（患者の指の幅を測定単位とした、経穴の位置決定法）
		4. 簡便な位置決定法
第七単元 手の太陰肺経、腧穴	手の太陰肺経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：中府、尺沢、孔最、列欠、太淵、魚際、少商
第八単元 手の陽明大腸経、腧穴	手の陽明大腸経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：商陽、合谷、陽溪、偏歴、手三里、曲池、肩髃、扶突、迎香
第九単元 足の陽明胃経、腧穴	足の陽明胃経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：承泣、四白、地倉、頰車、下関、頭維、人迎、梁門、天枢、归来、梁丘、足三里、上巨虚、下巨虚、条口、豊隆、解溪、内庭、厉兌
第十単元 足の太陰脾臓経、腧穴	足の太陰脾臓経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：隠白、太白、公孫、三陰交、地機、陰陵泉、血海、大横、大包
第十一単元 手の少陰心経、腧穴	手の少陰心経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：極泉、少海、通里、陰郤、神門、少衝
第十二単元 手の太陽小腸経、腧穴	手の太陽小腸経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：少沢、後溪、養老、支正、天宗、顛髖、聽宮

単元	細目	要点
第十三単元 足の太陽膀胱経、 腧穴	足の太陽膀胱経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：睛明、攢竹、天柱、大杼、風門、肺俞、心俞、膈俞、肝俞、胆俞、脾臓俞、胃俞、腎俞、大腸俞、膀胱俞、次膠、承扶、委陽、委中、膏肓、志室、秩辺、承山、飛揚、昆侖、申脈、束骨、至陰
第十四単元 足の少陰腎経、腧穴	足の少陰腎経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：涌泉、然谷、太溪、大鍾、照海、復溜、盲俞
第十五単元 手の厥陰心包経、 腧穴	手の厥陰心包経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：天池、曲沢、郄門、間使、内関、大陵、労宮、中衝
第十六単元 手の少陽三焦経、 腧穴	手の少陽三焦経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：関衝、中渚、陽池、外関、支溝、肩髃、翳風、角孫、耳門、絲竹空
第十七単元 足の少陽胆経、腧穴	足の少陽胆経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：瞳子髃、聴会、完骨、陽白、頭臨泣、風池、肩井、日月、帶脈、環跳、風市、陽陵泉、光明、懸鍾、丘墟、足臨泣、俠溪、足竅陰
第十八単元 足の厥陰肝経、腧穴	足の厥陰肝経、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：大敦、行間、太衝、蠡溝、曲泉、章門、期門
第十九単元 督脈、腧穴	督脈、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：長強、腰陽関、命門、至陽、身柱、大椎、瘻門、風府、百会、上星、素髃、水溝、印堂

単元	細目	要点
第二十単元 任脈、腧穴	任脈、腧穴	1. 経脈循環
		2. 主治の概要
		3. よく用いられる腧穴の位置決定、主治の要点および操作：中極、関元、気海、神闕、下脘、建里、中脘、上脘、膻中、天突、廉泉、承漿
第二十一単元 奇穴	奇穴	よく用いられる奇穴の位置決定、主治の要点および操作：四神聰、太陽、金津、玉液、牽正、安眠、三角灸、定喘、夾脊、胃脘下俞、腰眼、腰痛点、八邪、四縫、十宣、外勞宮、内膝眼、胆囊、關尾、八風
第二十二単元 毫鍼刺法	一、鍼刺の準備	1. 消毒
		2. 体位
	二、鍼の刺入方法	1. 指切進鍼法（1つの爪で圧力を加える）
		2. 挾持進鍼法（押手の親指と人差し指で、鍼体を包み込んだ滅菌済みコットンボールを持つ）
		3. 舒張進鍼法（皮膚を引っ張って鍼を刺しやすくする）
		4. 提捏進鍼法（鍼を刺入し、その間にもう一方の手で肉をつまんで持ち上げる）
	三、鍼刺の方向、角度および深さ	1. 方向
		2. 角度
		3. 深さ
	四、行鍼（望ましい効果を起こすために、刺入後に鍼を操作すること）の手法	1. 基本的手法
		2. 補助的手法
	五、得気（鍼を刺された際に生じる重い感覚）	得気概念および臨床的意義
	六、鍼刺による補（気が不足している場所の気を補う）瀉（気が充滿している場所の気を削る）	1. 捻転補瀉（気が得られた後、鍼を回すことによる補瀉）
		2. 提挿補瀉（気が得られた後、鍼を持ち上げて押し込むことによる補瀉）
		3. 疾徐補瀉（鍼の刺入と抜去の相対速度を変えることによる補瀉）
		4. 迎随補瀉（経絡の経路と同じ方向または逆の方向に鍼を刺入することによる補瀉）
		5. 呼吸補瀉（患者の呼吸に合わせて鍼を刺入・抜去することによる補瀉）
		6. 開闔補瀉（鍼の抜去後、刺入穴を開けるまたは閉じることによる補瀉）
		7. 平補平瀉（都合の良い角度で、同じ振幅または回転で均等に持ち上げ、押し込むことによる平補平瀉）
	七、鍼刺の異常状況	1. 暈鍼（鍼療法中や鍼療法後の、失神、めまい、吐き気、冷汗）
		2. 滞鍼（鍼療法中に鍼を曲げたり、持ち上げたり、押し込んだりできなくなる）
3. 血腫		
4. 断鍼（鍼療法を行った際に、皮下で鍼が折れること）		
5. 弯鍼（鍼を体に刺入した後、鍼が曲がること）		

単元	細目	要点
第二十二単元 毫鍼刺法	七、鍼刺の異常状況	6. 内臓の刺傷
		7. 脳と脊髄の刺傷
		8. 末梢神経の損傷
	八、鍼刺の注意事項	1. 施術部位の適否
		2. 患者状態の適否
		3. 病情の適否
第二十三単元 灸	一、灸の作用	1. 温経散寒（体を温め寒邪を除く）
		2. 扶陽固脱（「陽気」をたすけ、虚脱しないように固める）
		3. 消瘀散結（瘀血を取り除き、しこりを散らす）
		4. 防病保健（疾患予防と健康保護）
		5. 引熱外行（中にこもった熱を外に逃がす）
	二、灸の種類	1. 灸の分類
		2. 艾炷灸（直接灸）
		3. 艾条灸（棒灸）
		4. 温鍼灸（灸頭鍼）
	三、灸の注意事項	1. 施灸の順序
		2. 施灸の禁忌
		3. 灸後の処理
第二十四単元 カッピング	カッピング	1. カッピングの方法
		2. カッピングの作用および適用範囲
		3. カッピングの注意事項
第二十五単元 その他の鍼法	その他の鍼法	1. 電気鍼
		2. 三稜鍼
		3. 皮膚鍼
		4. 火鍼
		5. 穴位注射
第二十六単元 頭鍼、耳鍼	一、頭鍼	標準頭穴線の位置決定および主治
	二、耳鍼	1. よく用いられる耳穴の部位および主治
		2. 臨床における経穴選択の原則および注意事項
第二十七単元 鍼灸治療総論	一、鍼灸治療の原則	1. 補虚瀉実（足りないものを補い、不要なものを除去する）
		2. 清熱温寒（熱を取り除き、寒さを温める）
		3. 治病求本（病気の根本原因を探る）
		4. 三因制宜（時（季節）・地（地理的な環境）・人（個人差）の3つの要因を考慮して、適切な治療を行う）

単元	細目	要点
第二十七単元 鍼灸治療総論	二、鍼灸治療の作用	1. 経絡の疏通
		2. 陰と陽の調和
		3. 扶正去邪（正気（せいき）を養い邪気を取り除く）
	三、鍼灸の処方	1. 経穴選択の原則
		2. 配穴（経穴の組み合わせ）方法
第二十八単元 内科病証の鍼灸治療	一、頭痛	1. 頭痛の病因・症状分析の要点
		2. 頭痛の治療法
		3. 頭痛の経穴選択
		4. 頭痛の治療操作
	附：偏頭痛	1. 偏頭痛の病因・症状分析の要点
		2. 偏頭痛の治療法
		3. 偏頭痛の経穴選択
		4. 偏頭痛の治療操作
	二、顔面痛	1. 顔面痛の病因・症状分析の要点
		2. 顔面痛の治療法
		3. 顔面痛の経穴選択
		4. 顔面痛の治療操作
	三、腰痛	1. 腰痛の病因・症状分析の要点
		2. 腰痛の治療法
		3. 腰痛の経穴選択
		4. 腰痛の治療操作
	四、痺証	1. 痺証の病因・症状分析の要点
		2. 痺証の治療法
		3. 痺証の経穴選択
		4. 痺証の治療操作
	五、坐骨神経痛	1. 坐骨神経痛の病因・症状分析の要点
		2. 坐骨神経痛の治療法
		3. 坐骨神経痛の経穴選択
		4. 坐骨神経痛の治療操作
	六、中風	1. 中風の病因・症状分析の要点
		2. 中風の治療法
		3. 中風の経穴選択
		4. 中風の治療操作

単元	細目	要点
第二十八単元 内科病証の鍼灸治療	七、めまい	1. めまいの病因・症状分析の要点
		2. めまいの治療法
		3. めまいの経穴選択
		4. めまいの治療操作
	八、顔面神経麻痺	1. 顔面神経麻痺の病因・症状分析の要点
		2. 顔面神経麻痺の治療法
		3. 顔面神経麻痺の経穴選択
		4. 顔面神経麻痺の治療操作
	九、痿証	1. 痿証の病因・症状分析の要点
		2. 痿証の治療法
		3. 痿証の経穴選択
		4. 痿証の治療操作
	十、てんかん	1. てんかんの病因・症状分析の要点
		2. てんかんの治療法
		3. てんかんの経穴選択
		4. てんかんの治療操作
	十一、不眠	1. 不眠の病因・症状分析の要点
		2. 不眠の治療法
		3. 不眠の経穴選択
		4. 不眠の治療操作
十二、鬱証（神経症）	1. 鬱証の病因・症状分析の要点	
	2. 鬱証の治療法	
	3. 鬱証の経穴選択	
	4. 鬱証の治療操作	
十三、痴呆	1. 痴呆の病因・症状分析の要点	
	2. 痴呆の治療法	
	3. 痴呆の経穴選択	
	4. 痴呆の治療操作	
十四、動悸	1. 動悸の病因・症状分析の要点	
	2. 動悸の治療法	
	3. 動悸の経穴選択	
	4. 動悸の治療操作	
十五、感冒	1. 感冒の病因・症状分析の要点	
	2. 感冒の治療法	
	3. 感冒の経穴選択	
	4. 感冒の治療操作	

単元	細目	要点
第二十八単元 内科病証の鍼灸治療	十六、咳嗽	1. 咳嗽の病因・症状分析の要点
		2. 咳嗽の治療法
		3. 咳嗽の経穴選択
		4. 咳嗽の治療操作
	十七、喘息	1. 喘息の病因・症状分析の要点
		2. 喘息の治療法
		3. 喘息の経穴選択
		4. 喘息の治療操作
	十八、嘔吐	1. 嘔吐の病因・症状分析の要点
		2. 嘔吐の治療法
		3. 嘔吐の経穴選択
		4. 嘔吐の治療操作
	十九、胃痛	1. 胃痛の病因・症状分析の要点
		2. 胃痛の治療法
		3. 胃痛の経穴選択
		4. 胃痛の治療操作
	二十、下痢	1. 下痢の病因・症状分析の要点
		2. 下痢の治療法
		3. 下痢の経穴選択
		4. 下痢の治療操作
	二十一、便秘	1. 便秘の病因・症状分析の要点
		2. 便秘の治療法
		3. 便秘の経穴選択
		4. 便秘の治療操作
	二十二、排尿障害	1. 排尿障害の病因・症状分析の要点
		2. 排尿障害の治療法
		3. 排尿障害の経穴選択
		4. 排尿障害の治療操作
二十三、消渴	1. 消渴の病因・症状分析の要点	
	2. 消渴の治療法	
	3. 消渴の経穴選択	
	4. 消渴の治療操作	

単元	細目	要点
第二十九单元 婦小兒科病証の鍼灸治療	一、月經不順	1. 月經不順の病因・症状分析の要点
		2. 月經不順の治療法
		3. 月經不順の経穴選択
		4. 月經不順の治療操作
	二、月經痛	1. 月經痛の病因・症状分析の要点
		2. 月經痛の治療法
		3. 月經痛の経穴選択
		4. 月經痛の治療操作
	三、不正出血	1. 不正出血の病因・症状分析の要点
		2. 不正出血の治療法
		3. 不正出血の経穴選択
		4. 不正出血の治療操作
	四、閉經前後の諸症状	1. 閉經前後の諸症状の病因・症状分析の要点
		2. 閉經前後の諸症状の治療法
		3. 閉經前後の諸症状の経穴選択
		4. 閉經前後の諸症状の治療操作
	五、帯下異常	1. 帯下異常の病因・症状分析の要点
		2. 帯下異常の治療法
		3. 帯下異常の経穴選択
		4. 帯下異常の治療操作
	六、母乳分泌不足	1. 母乳分泌不足の病因・症状分析の要点
		2. 母乳分泌不足の治療法
		3. 母乳分泌不足の経穴選択
		4. 母乳分泌不足の治療操作
	七、遺尿	1. 遺尿の病因・症状分析の要点
		2. 遺尿の治療法
		3. 遺尿の経穴選択
		4. 遺尿の治療操作
八、小兒多動性障害	1. 小兒多動性障害の病因・症状分析の要点	
	2. 小兒多動性障害の治療法	
	3. 小兒多動性障害の経穴選択	
	4. 小兒多動性障害の治療操作	

単元	細目	要点
第三十単元 皮膚外傷科病証の鍼灸治療	一、蕁麻疹	1. 蕁麻疹の病因・症状分析の要点
		2. 蕁麻疹の治療法
		3. 蕁麻疹の経穴選択
		4. 蕁麻疹の治療操作
	二、帯状疱疹	1. 帯状疱疹の病因・症状分析の要点
		2. 帯状疱疹の治療法
		3. 帯状疱疹の経穴選択
		4. 帯状疱疹の治療操作
	三、神経性皮膚炎	1. 神経性皮膚炎の病因・症状分析の要点
		2. 神経性皮膚炎の治療法
		3. 神経性皮膚炎の経穴選択
		4. 神経性皮膚炎の治療操作
	四、乳癬（乳房に停滞不散のしこりが生じる）	1. 乳癬の病因・症状分析の要点
		2. 乳癬の治療法
		3. 乳癬の経穴選択
		4. 乳癬の治療操作
	五、頸椎症	1. 頸椎症の病因・症状分析の要点
		2. 頸椎症の治療法
		3. 頸椎症の経穴選択
		4. 頸椎症の治療操作
	六、寝違え	1. 寝違えの病因・症状分析の要点
		2. 寝違えの治療法
		3. 寝違えの経穴選択
		4. 寝違えの治療操作
	七、肩関節周囲炎	1. 肩関節周囲炎の病因・症状分析の要点
		2. 肩関節周囲炎の治療法
		3. 肩関節周囲炎の経穴選択
		4. 肩関節周囲炎の治療操作
	八、ねんざ	1. ねんざの病因・症状分析の要点
		2. ねんざの治療法
		3. ねんざの経穴選択
		4. ねんざの治療操作
	九、肘痛	1. 肘痛の病因・症状分析の要点
		2. 肘痛の治療法
		3. 肘痛の経穴選択
		4. 肘痛の治療操作

単元	細目	要点
第三十一単元 耳鼻咽喉科および眼科病証の鍼灸治療	一、目の充血と腫れ	1. 目の充血と腫れの病因・症状分析の要点
		2. 目の充血と腫れの治療法
		3. 目の充血と腫れの経穴選択
		4. 目の充血と腫れの治療操作
	二、耳鳴りと難聴	1. 耳鳴りと難聴の病因・症状分析の要点
		2. 耳鳴りと難聴の治療法
		3. 耳鳴りと難聴の経穴選択
		4. 耳鳴りと難聴の治療操作
	三、アレルギー性鼻炎	1. アレルギー性鼻炎の病因・症状分析の要点
		2. アレルギー性鼻炎の治療法
		3. アレルギー性鼻炎の経穴選択
		4. アレルギー性鼻炎の治療操作
	四、歯痛	1. 歯痛の病因・症状分析の要点
		2. 歯痛の治療法
		3. 歯痛の経穴選択
		4. 歯痛の治療操作
	五、喉の腫れ	1. 喉の腫れの病因・症状分析の要点
		2. 喉の腫れの治療法
		3. 喉の腫れの経穴選択
		4. 喉の腫れの治療操作
	六、近視	1. 近視の病因・症状分析の要点
		2. 近視の治療法
		3. 近視の経穴選択
		4. 近視の治療操作
第三十二単元 急性疾患およびその他の病証の鍼灸治療	一、卒倒	1. 卒倒の病因・症状分析の要点
		2. 卒倒の治療法
		3. 卒倒の経穴選択
		4. 卒倒の治療操作
	二、内臓の激しい痛み	1. 内臓の激しい痛みの病因・症状分析の要点
		2. 内臓の激しい痛みの治療法
		3. 内臓の激しい痛みの経穴選択
		4. 内臓の激しい痛みの治療操作
	三、肥胖	1. 肥胖の病因・症状分析の要点
		2. 肥胖の治療法
		3. 肥胖の経穴選択
		4. 肥胖の治療操作

四、西洋医学総合

(一) 診断学の基礎

単元	細目	要点
第一単元 症状学	一、発熱	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 問診の要点および臨床的意義
	二、頭痛	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
	三、胸痛	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
	四、腹痛	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
	五、咳嗽と喀痰	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
	六、喀血	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
		4. 喀血と吐血との鑑別
	七、呼吸困難	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 問診の要点および臨床的意義
	八、浮腫	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 問診の要点および臨床的意義
	九、吐き気と嘔吐	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義

単元	細目	要点
第一単元 症状学	十、吐血と黒色便	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 問診の要点および臨床的意義
	十一、黄疸	1. 概念
		2. ビリルビンの正常代謝
		3. 各種黄疸の病因、臨床症状および臨床検査の特徴
		4. 問診の要点および臨床的意義
	十二、痙攣	1. 概念
		2. 病因
		3. 問診の要点および臨床的意義
	十三、意識障害	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 問診の要点および臨床的意義
	第二単元 問診	問診
2. 問診の内容		
第三単元 身体検査	一、基本的な検査法	1. 視診の内容および方法
		2. よく用いられる触診方法ならびにその適用範囲および注意事項
		3. 打診の方法および一般的な打診音
		4. 嗅診における一般的な異常臭および臨床的意義
	二、全身状態の検査および臨床的意義	1. バイタルサインの検査内容および臨床的意義
		2. 発育と体型
		3. 栄養状態
		4. 意識状態
		5. 面容と表情
		6. 体位および歩行状態
	三、皮膚の検査および臨床的意義	1. 弾性、色、湿度
		2. 皮疹、皮下出血、クモ状母斑、浮腫
		3. 皮下結節、毛髪
	四、リンパ節の検査	1. 表在リンパ節の分布
		2. 表在リンパ節の検査方法
		3. 表在リンパ節腫大の臨床的意義

単元	細目	要点
第三単元 身体検査	五、頭部の検査	1. 頭の形状、大きさ
		2. 眼
		3. 耳
		4. 鼻
		5. 口腔、耳下腺
	六、頸部の検査	1. 頸部血管
		2. 甲状腺
		3. 気管
	七、胸壁および胸郭の検査	1. 胸部の体表指標およびエリア区分
		2. 胸郭
		3. 胸壁
		4. 乳房
	八、肺および胸膜の検査	1. 視診
		2. 触診
		3. 打診
		4. 聴診（呼吸音、ラ音、胸膜摩擦音、聴覚音声）
		5. 呼吸器系の一般的な疾患の徴候
	九、心臓、血管の検査	1. 視診
		2. 触診
		3. 打診
		4. 聴診〔心臓弁膜聴診区域、心拍数、心拍リズム、正常心音、心音変化、付加心音（クリック音、ギャロップリズムおよび開弁音）、心雑音、心膜摩擦音〕
		5. 血管検査
		6. 循環器系の一般的な疾患の徴候
	十、腹部の検査	1. 視診（形状、呼吸運動、腹壁静脈、胃腸型および蠕動波）
		2. 触診（腹壁緊張度、圧痛および反跳痛、波動触診、肝臓、胆嚢、脾臓、腎臓の触診、正常腹部の触知可能な構造、腹部しこりの触診）
3. 打診（打診音、腹腔臓器打診、移動性濁音打診）		
4. 聴診（腸音、振盪音、血管雑音）		
5. 腹部の一般的な疾患の徴候（急性腹膜炎、肝硬変門脈圧亢進、腸閉塞）		

単元	細目	要点
第三単元 身体検査	十一、肛門、直腸の検査および臨床的意義	1. 視診
		2. 指診
	十二、脊柱と四肢の検査および臨床的意義	1. 脊柱
		2. 四肢と関節
	十三、神経系の検査および臨床的意義	1. 脳神経検査（視神経、動眼神経、三叉神経、面神経）
		2. 感覚機能
		3. 運動機能
		4. 生理的および病理的反射
5. 髄膜刺激徴候およびラセーグ徴候		
第四単元 臨床診断	一、血液の一般的検査および臨床的意義	1. ヘモグロビン測定および赤血球数、赤血球形態変化
		2. 白血球数および白血球分類、好中球核変化
		3. 網状赤血球
		4. 血小板数
		5. 赤血球沈降速度
		6. C反応性蛋白
	二、血栓と止血の検査	1. 出血時間
		2. 血小板凝集
		3. 凝固因子（活性化部分トロンボプラスチン時間、プロトロンビン時間、血漿フィブリノゲン）
		4. 線溶活性（D-ダイマー、3Pテスト）
		5. 経口抗凝固薬治療のモニタリング
	三、骨髄の検査	1. 骨髄細胞学的検査の臨床的意義
		2. 骨髄異形成の等級区分
	四、肝臓病の臨床検査	1. 蛋白質代謝
		2. ビリルビン代謝
		3. 血清酵素およびアイソザイム（ALT、AST、ALP、 γ -GT、LDH）
		4. A型、B型、C型ウイルス性肝炎マーカー
	五、腎機能の検査	1. 糸球体の機能
		2. 腎尿細管の機能（尿 β 2-ミクログロブリン、Mosenthalテスト）
		3. 血中尿酸

単元	細目	要点
第四単元 臨床診断	六、一般的な生化学的検査	1. 糖代謝検査（血糖、ブドウ糖負荷試験、血清糖化ヘモグロビン）
		2. 血中脂質（血中脂質四項）
		3. 電解質
		4. 血清鉄およびその代謝物の測定（血清鉄、鉄飽和度、フェリチン）
	七、アミラーゼ検査および心筋損傷マーカー	1. 血中、尿中アミラーゼ
		2. 心筋損傷の一般的な酵素検査（CK、CK-MB、LDH およびそのアイソザイム）
		3. 心筋蛋白検査（cTnT、cTnI）
		4. 脳性ナトリウム利尿ペプチド
	八、免疫学的検査	1. 血清免疫グロブリンおよび補体
		2. 感染免疫（ASO、ウィダーール反応）
		3. 腫瘍マーカー（AFP、CEA、CA125、PSA、CA19-9）
		4. 自己抗体検査（RF、ANA、抗Sm抗体、抗SSA抗体、抗二本鎖DNA抗体）
	九、尿検査	1. 一般的性質（尿量、色、におい、比重）
		2. 化学的検査（蛋白、糖、ケトン体）
		3. 顕微鏡検査（細胞、尿円柱、コロニー数）
		4. 尿沈渣数
	十、糞便検査	1. 検体採取
		2. 一般的性質（量、色、性状、におい）
		3. 顕微鏡検査（細胞、寄生虫）
		4. 化学的検査（潜血試験、ビリルビン検査）
		5. 細菌学的検査
十一、喀痰検査	1. 検体採取	
	2. 一般的性質（量、色、性状、におい）	
	3. 顕微鏡検査	
	4. 病原体検査	
十二、漿膜腔穿刺液の検査	1. 漿膜腔液の分類および一般的な原因	
	2. 滲出液と漏出液との鑑別	
十三、脳脊髄液の検査	1. 脳脊髄液検査の適応証、禁忌証	
	2. 一般的な中枢神経系疾患の脳脊髄液の特徴	

単元	細目	要点
第五単元 心電図診断	一、心電図の基礎知識	1. よく用いられる心電図誘導
		2. 心電図の各波形の意味
	二、心電図測定、正常心電図および臨床的意義	1. 心拍数計算および各波形の測定
		2. 心電軸測定
		3. 心電図各波形の正常範囲およびその変化の臨床的意義
	三、一般的な異常心電図および臨床的意義	1. 心房、心室肥大
		2. 心筋梗塞および心筋虚血
		3. 不整脈（頻脈、異所性頻拍、心房細動、房室ブロック、心室早期興奮）
		4. 血中カリウム異常
		5. 心電図の臨床応用価値
第六単元 画像診断	一、超音波診断	1. 超音波診断の臨床応用
		2. 僧帽弁、大動脈弁膜病変の超音波像図および心機能評価
		3. 胆嚢結石、泌尿器系結石の異常超音波像図
		4. 脂肪肝、肝硬変の異常超音波像図
	二、放射線診断	1. X線の特性および画像形成原理
		2. X線検査方法
		3. CT、磁気共鳴画像診断（MRI）の臨床応用
		4. 一般的な呼吸器系疾患の画像所見
		5. 一般的な循環器系疾患の画像所見
		6. 消化器系疾患の画像学的検査および一般的疾患の画像所見
		7. 一般的な泌尿器系疾患の画像所見
		8. 一般的な骨・関節疾患の画像所見
		9. 一般的な中枢神経系疾患の画像所見
	三、放射性核種診断	In vitro競合的ラジオアッセイ（TT3、FT3、TT4、FT4、TSH、Cペプチド、インスリン）
第七単元 診療録と診断方法	診療録と診断方法	1. 診療録の書式と内容
		2. 診断確立のためのステップおよび原則
		3. 診断内容および記載

(二) 内 科 学

(師承または専門的な知識を有する者は試験対象外)

単元	細目	要点
第一単元 呼吸器系疾患	一、慢性閉塞性肺疾患	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状と合併症
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	二、慢性肺性心疾患	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状と合併症
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	三、気管支喘息	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状と合併症
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	四、肺炎	1. 概要
		2. 肺炎球菌による肺炎
		(1) 病因と発病機序
		(2) 臨床症状と合併症
		(3) 臨床検査およびその他の検査
		(4) 診断と鑑別診断
		(5) 病情の評価
(6) 治療と予防		

単元	細目	要点
第一単元 呼吸器系疾患	四、肺炎	3. 肺炎マイコプラズマによる肺炎
		(1) 病因と発病機序
		(2) 臨床症状
		(3) 臨床検査およびその他の検査
		(4) 診断と鑑別診断
		(5) 病情の評価
		(6) 治療と予防
	五、原発性気管支肺癌	1. 概要
		2. 病因
		3. 病理と分類
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療の原則
	六、慢性呼吸不全	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病態生理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
	第二単元 循環器系疾患	一、急性心不全
2. 病因と発病機序		
3. 臨床症状		
4. 診断と鑑別診断		
5. 病情の評価		
6. 治療と予防		
二、慢性心不全		1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病態生理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防

単元	細目	要点
第二単元 循環器系疾患	三、不整脈	1. 概要
		2. 分類
		3. 発病機序
		4. よく用いられる抗不整脈薬
	四、頻脈性不整脈	1. 概要
		2. 頻脈
		(1) 病因
		(2) 臨床症状
		(3) 心電図診断
		(4) 治療と予防
		3. 発作性頻脈
		(1) 病因
		(2) 臨床症状
		(3) 心電図診断
		(4) 治療と予防
		五、徐脈性不整脈
	(1) 概要	
	(2) 病因	
	(3) 臨床症状	
	(4) 心電図診断	
	(5) 治療と予防	
	六、心停止と蘇生法	1. 概要
		2. 病因
3. 臨床症状		
4. 病情の評価		
5. 心肺蘇生法		
七、原発性高血圧	1. 概要	
	2. 病因と発病機序	
	3. 臨床症状と合併症	

単元	細目	要点
第二単元 循環器系疾患	七、原発性高血圧	4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	八、冠状動脈性心臓病	1. 概要
		2. リスク因子
		3. 臨床分類
	九、狭心症	1. 概要
		2. 発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	十、急性心筋梗塞	1. 概要
		2. 発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	十一、心臓弁膜症	1. 概要
		2. 僧帽弁狭窄症
		(1) 病因
		(2) 臨床症状と合併症
		(3) 診断と鑑別診断
		(4) 治療と予防
		3. 僧帽弁閉鎖不全
(1) 病因		
(2) 臨床症状		
(3) 診断と鑑別診断		
(4) 治療と予防		

単元	細目	要点
第二単元 循環器系疾患	十一、心臓弁膜症	4. 大動脈弁狭窄症
		(1) 病因
		(2) 臨床症状
		(3) 診断と鑑別診断
		(4) 治療と予防
		5. 大動脈弁閉鎖不全
		(1) 病因
		(2) 臨床症状
		(3) 診断と鑑別診断
		(4) 治療と予防
第三単元 消化器系疾患	一、慢性胃炎	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
	二、消化性潰瘍	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病理
		4. 臨床症状と合併症
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
	三、胃がん	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療の原則

単元	細目	要点
第三単元 消化器系疾患	四、潰瘍性大腸炎	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
	五、肝硬変	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状と合併症
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	六、原発性肝がん	1. 概要
		2. 病因
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療の原則
	七、急性膵炎	1. 概要
		2. 病因および発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
6. 病情の評価		
7. 治療と予防		
第四単元 泌尿器系疾患	一、慢性糸球体腎炎	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査

単元	細目	要点	
第四単元 泌尿器系疾患	一、慢性糸球体腎炎	5. 診断と鑑別診断	
		6. 病情の評価	
		7. 治療と予防	
	二、尿路感染症	1. 概要	
		2. 病因と発病機序	
		3. 臨床症状	
		4. 臨床検査およびその他の検査	
		5. 診断と鑑別診断	
		6. 病情の評価	
		7. 治療と予防	
	三、慢性腎臓病（慢性腎不全）	1. 概要	
		2. 病因と発病機序	
		3. 臨床症状	
		4. 臨床検査およびその他の検査	
		5. 診断	
		6. 病情の評価	
		7. 治療と予防	
	第五単元 血液系の疾患	一、鉄欠乏性貧血	1. 概要
			2. 病因と発病機序
			3. 臨床症状
			4. 臨床検査
5. 診断と鑑別診断			
6. 病情の評価			
7. 治療と予防			
二、再生不良性貧血		1. 概要	
		2. 病因と発病機序	
		3. 臨床症状	
		4. 臨床検査	
		5. 診断と鑑別診断	
		6. 病情の評価	
		7. 治療と予防	
三、白血病		概要	

単元	細目	要点
第五単元 血液系の疾患	四、急性白血病	1. 概要
		2. 臨床症状
		3. 臨床検査
		4. 診断と鑑別診断
		5. 病情の評価
		6. 治療と予防
	五、慢性骨髄性白血病	1. 概要
		2. 臨床症状
		3. 臨床検査
		4. 診断と鑑別診断
		5. 病情の評価
		6. 治療と予防
	六、白血球減少症	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 診断と鑑別診断
		5. 病情の評価
		6. 治療と予防
	七、原発性免疫性血小板減少症	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	八、骨髄異形成症候群	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状
4. 臨床検査		
5. 診断と鑑別診断		
6. 病情の評価		
7. 治療と予防		

単元	細目	要点
第六単元 内分泌と代謝疾患	一、甲状腺機能亢進症	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	二、甲状腺機能低下症	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	三、糖尿病	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状と合併症
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価（リスク因子、高リスク群）
		7. 治療と予防
	四、糖尿病性ケトアシドーシス	1. 概念
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査
		5. 診断
		6. 治療と予防
	五、脂質異常症	1. 概要
2. 分類		
3. 臨床症状		
4. 臨床検査		
5. 診断		
6. 病情の評価（リスク層別化）		
7. 治療と予防		

単元	細目	要点
第六単元 内分泌と代謝疾患	六、高尿酸血症と痛風	1. 概要
		2. 病因および分類
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
第七単元 結合組織疾患	一、関節リウマチ	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
	二、全身性エリテマトーデス	1. 概要
		2. 病因
		3. 病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査およびその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 病情の評価
		8. 治療と予防
第八単元 神経系の疾患	一、てんかん	1. 概要
		2. 病因
		3. 分類と臨床症状
		4. 診断と鑑別診断
		5. 病情の評価
		6. 治療と予防
	二、一過性脳虚血発作	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価（リスク層別化および予後）
		7. 治療と予防

単元	細目	要点
第八単元 神経系の疾患	三、脳梗塞	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	四、脳出血	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	五、クモ膜下出血	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 臨床検査およびその他の検査
		5. 診断と鑑別診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
第九単元 一般的な急性疾患・重症疾患	一、ショック	1. 概要
		2. 病因と分類
		3. 病態生理
		4. 臨床症状
		5. 診断
		6. 病情の評価
		7. 治療と予防
	二、急性上部消化管出血	1. 概要
		2. 病因
		3. 臨床症状
		4. 診断
		5. 病情の評価
		6. 治療と予防

単元	細目	要点
第九単元 一般的な急性疾患・重症疾患	三、急性中毒	1. 概要
		2. 急性一酸化炭素中毒
		(1) 病因と中毒機序
		(2) 臨床症状
		(3) 診断
		(4) 治療と予防
		3. 急性有機リン系殺虫剤中毒
		(1) 病因と中毒機序
		(2) 臨床症状
		(3) 診断
		(4) 治療と予防
		4. 急性アルコール中毒
		(1) 病因と中毒機序
		(2) 臨床症状
		(3) 診断
		(4) 治療と予防
	四、熱中症	1. 概要
		2. 病因と発病機序
		3. 臨床症状
		4. 診断と鑑別診断
5. 病情の評価		
6. 治療と予防		

(三) 疫学

単元	細目	要点
第一単元 疫学総論	一、感染	1. 感染の概念
		2. 感染過程における症状
		3. 感染過程における病原体の作用
		4. 感染過程における免疫応答の作用
		5. 感染症の発病機序
	二、感染症の流行過程	1. 流行過程の基本条件
		2. 流行過程に影響する要因
	三、感染症の特徴	1. 基本的特徴
		2. 臨床的特徴
	四、感染症の診断	1. 疫学的情報
		2. 臨床情報
		3. 臨床検査とその他の検査
	五、感染症の治療	1. 治療の原則
		2. 治療方法
	六、感染症の予防	1. 感染源の管理
		2. 感染経路の遮断
		3. 易感染群の保護
	第二単元 ウイルス感染	一、ウイルス性肝炎
2. 疫学		
3. 発病機序と病理		
4. 臨床症状		
5. 臨床検査とその他の検査		
6. 診断と鑑別診断		
7. 治療		
8. 予防		
二、流行性感冒		1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防

単元	細目	要点
第二単元 ウイルス感染	三、ヒト感染高病原性鳥インフルエンザ	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
	四、エイズ	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 予防
	五、流行性出血熱	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
	六、狂犬病	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査
6. 診断と鑑別診断		
7. 治療		
8. 予防		
七、流行性B型脳炎	1. 病因学	
	2. 疫学	
	3. 発病機序と病理	

単元	細目	要点
第二単元 ウイルス感染	七、流行性B型脳炎	4. 臨床症状
		5. 臨床検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
第三単元 細菌感染	一、流行性脳脊髄膜炎	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
	二、腸チフス	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
	三、細菌性赤痢	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査
		6. 診断と鑑別診断
		7. 治療
		8. 予防
	四、霍乱	1. 病因学
		2. 疫学
		3. 発病機序と病理
		4. 臨床症状
		5. 臨床検査とその他の検査

単元	細目	要点	
第三単元 細菌感染	四、霍乱	6. 診断と鑑別診断	
		7. 治療	
		8. 予防	
	五、結核	1. 病因学	
		2. 疫学	
		3. 発病機序と病理	
		4. 臨床症状	
		5. 臨床検査とその他の検査	
		6. 診断と鑑別診断	
		7. 予防	
	六、ブルセラ症	1. 病因学	
		2. 疫学	
		3. 発病機序と病理	
		4. 臨床症状	
		5. 臨床検査とその他の検査	
		6. 診断と鑑別診断	
		7. 治療	
		8. 予防	
	第四単元 消毒と隔離	一、消毒	1. 消毒の概念
			2. 消毒の目的
			3. 消毒の種類
			4. 消毒方法
			5. 消毒方法のモニタリング
		二、隔離	1. 隔離の概念
2. 隔離の種類			
3. 隔離の期限			
三、院内感染		1. 院内感染の概念	
		2. 院内感染の防止原則	

五、医学人文科学

(一) 医療倫理学

単元	細目	要点	
第一単元 医療倫理学と医療の目的、医療モデル	一、医療倫理学	1. 倫理学、医療倫理学、医療道徳 2. 医療倫理学の研究対象、研究内容	
	二、医学の目的、医療モデル	1. 医学の目的に含まれる要素 2. 医療モデルの種類	
第二単元 中医学における道徳的伝統	一、古代中国の医学者の道徳的境界		
	二、現代中国の医学者の道徳的境界		
	三、当代中国の医学者の道徳的境界		
第三単元 医療倫理学の理論的基礎	一、生命論	1. 生命神聖論 2. 生命質量論 3. 生命価値論	
		二、人道論	1. 医療人道主義の意味 2. 医療人道主義の核心的内容
			三、美徳論
	四、功利論	1. 功利論の意味 2. 医徳功利の特徴	
	五、道義論	1. 道義論の意味 2. 医療道義論	
第四単元 医療道徳規範の体系	一、医療道徳の原則	1. 尊重 2. 無傷 3. 公正	
		二、医療道徳規範	1. 医療道徳規範の意味 2. 医療道徳規範の内容
			三、医療道徳の範囲
一、医師・患者関係の特徴	1. 医師・患者関係 2. 医師・患者関係のモデル 3. 医師・患者関係に影響する主な要因 4. 患者との関係における道徳的原則への対応		
	二、患者との意思疎通における道徳的要件	1. 患者との意思疎通における原則、方法 2. 医師・患者間対立の防止	

単元	細目	要点
第六単元 医療従事者間関係における道徳的要件への対応	一、医療従事者間関係への正確な対応の意義	1. 医療サービスレベルの向上への寄与
		2. 医療従事者の育成への寄与
	二、医療従事者間関係への正確な対応のための道徳的原則	1. 相互尊重
		2. 相互支援
3. 相互監督		
第七単元 臨床診療における道徳的要件	一、臨床診療の道徳的原則	1. 臨床診療の道徳に含まれる要素
		2. 臨床診療の道徳的原則
	二、臨床診断における道徳的要件	1. 中医学の四診における道徳的要件
		2. 身体検査における道徳的要件
		3. 補助検査における道徳的要件
	三、臨床治療における道徳的要件	1. 急性疾患患者の診療における道徳的要件
		2. 中医学療法における道徳的要件
		3. 薬物療法における道徳的要件
		4. 手術療法における道徳的要件
		5. 心理療法における道徳的要件
		6. リハビリテーション療法における道徳的要件
		7. 終末期医療における道徳的要件
	四、新技術の臨床応用における道徳的要件	1. ヒト補助生殖技術の実施における倫理的原則
2. ヒト臓器移植における倫理的原則		
3. ヒト胚性幹細胞の研究および応用における倫理的原則		
4. 遺伝子診断および遺伝子治療における倫理的原則		
第八単元 医学研究における道徳的要件	一、医学研究における基本的な道徳的要件	医学研究における基本的な道徳的要件
	二、人体実験における道徳的要件	1. 人体実験
		2. 人体実験の道徳的原則
第九単元 医療道徳の評価と良好な医師の徳性の涵養	一、医療道徳評価	1. 医療道徳評価の標準
		2. 医療道徳評価の方式
	二、医療道徳教育	1. 医療道徳教育の意義
		2. 医療道徳教育の方法
	三、医療道徳修養	1. 医療道徳修養の意義
		2. 医療道徳修養の経路
第十単元 医療倫理学の文献	一、国外文献	1. ヘルシンキ宣言（人間を対象とする医学研究の倫理的原則）（2000年改訂）
		2. 生命倫理学吉漢宣言（2000年）

単元	細目	要点
第十単元 医療倫理学の文献	一、国外文献	3. 国際研究における倫理的・政策的問題：発展途上国における臨床試験（2001年）
		4. ヒトゲノムデータベースに関するヒト遺伝子解析機構（HUGO）倫理委員会の声明（2002年）
		5. 国際医学団体協議会「人を対象とする生物医学研究の国際的倫理指針」（2002年8月改訂）
	二、国内文献	1. 「突発公共衛生事件応急条例」（2003年5月9日 国務院375号令）
		2. 中華人民共和国衛生部「ヒト補助生殖技術およびヒト精子バンクにおける倫理的原則」（2003年）
		3. 中華人民共和国科学技術部、衛生部「ヒト胚性幹細胞の研究における倫理指導原則」（2003年）
		4. 中華人民共和国国家中薬管理局「中薬臨床研究倫理審査管理規範」（2010）
		5. 中華人民共和国衛生と計画生育委員会「人を対象とする生物医学研究の倫理審査規則」（2016）

(二) 衛生法規

単元	細目	要点	
第一単元 衛生法の概要	一、衛生法の概念および根源	1. 衛生法の概念	
		2. 衛生法の根源	
	二、衛生法の基本原則および作用	1. 衛生法の基本原則	
		2. 衛生法の作用	
第二単元 衛生についての法的責任	一、衛生民事責任	1. 衛生民事責任の概念およびその特徴	
		2. 衛生民事責任の構成	
		3. 衛生民事責任の負担方式	
	二、衛生行政責任	1. 衛生行政責任の概念およびその種類	
		2. 衛生行政処罰の概念およびその種類	
		3. 衛生行政処分概念およびその種類	
	三、衛生刑事責任	1. 衛生刑事責任の概念	
		2. 刑事責任の実現方式	
		3. 衛生法違反時の刑事責任	
第三単元 「中華人民共和国執業医師法」	一、執業医師の概念および職責	1. 執業医師の概念	
		2. 執業医師の職責	
	二、医師資格試験制度	1. 執業医師資格試験の条件	
		2. 執業助理医師資格試験の条件	
	三、医師執業の登録制度	1. 執業医師登録の条件および手続き	
		2. 登録不可となる状況	
	四、執業医師の権利、義務および執業規則	1. 執業医師の権利	
		2. 執業医師の義務	
		3. 医師執業規則	
	五、「執業医師法」に規定される法的責任	1. 民事責任	
		2. 行政責任	
		3. 刑事責任	
	第四単元 「中華人民共和国薬品管理法」	一、概要	1. 「薬品管理法」の立法目的
			2. 医薬品の法的意味
			3. 医薬品が満たさなければならない法定要件
二、偽造・規格外医薬品の生産（調製を含む）、販売の禁止		1. 偽造医薬品の生産（調製を含む）、販売の禁止	
		2. 規格外医薬品の生産（調製を含む）、販売の禁止	
		3. 偽造医薬品の生産（調製を含む）、販売の禁止	

単元	細目	要点	
第四単元 「中華人民共和国薬品管理法」	三、特殊薬品の管理	1. 特殊薬品の分類	
		2. 麻酔薬品および向精神薬管理の関連規定	
		3. 医療用毒性薬品管理の関連規定	
	四、医療機関およびその職員に対する「薬品管理法」および関連法規、規則の関連規定	1. 医療機関における薬品使用の管理規定	
		2. 処方箋の管理規定	
		3. 医薬品売買におけるキックバックまたはその他の利益の帳簿外での秘密授受の禁止に関する規定	
	五、「薬品管理法」に規定される法的責任	1. 民事責任	
		2. 行政責任	
		3. 刑事責任	
		4. 関連する部門または個人が医薬品の売買においてキックバックを違法に授受した場合に負うべき法的責任	
	第五単元 「中華人民共和国伝染病防治法」	一、概要	1. 「伝染病防治法」の立法目的
			2. 感染症予防の実行に対する中国の方針
3. 法定感染症の分類			
二、感染症予防と流行状況報告		1. 国による感染症予防の関連制度の確立	
		2. 感染症の予防・制御における各レベルの医療機関および疾病予防・制御機関の職責	
		3. 感染症流行状況の報告	
		4. 感染症流行状況の通知および公表	
三、感染症流行状況の制御措置および医療による対応		1. 医療機関が感染症を発見した時取るべき措置	
		2. 疾病予防・制御機関が感染症流行状況を発見した、またはその報告を受けた時取るべき措置	
		3. 各レベルの政府部門が感染症発生時取るべき緊急措置	
		4. 医療による対応	
四、関連機関およびその職員が「伝染病防治法」の関連規定に違反した場合に負うべき法的責任		1. 民事責任	
		2. 行政責任	
		3. 刑事責任	
第六単元 「突発公共衛生事件応急条例」		一、概要	1. 突発公共衛生事件の概念
			2. 突発公共衛生事件への応急対応の方針および原則
	二、突発公共衛生事件の予防と応急準備	1. 突発公共衛生事件への応急対応計画の制定と対応計画の主な内容	
		2. 突発公共衛生事件の予防・制御体系	

単元	細目	要点
第六単元 「突発公共衛生事件応急条例」	三、突発公共衛生事件の報告と情報発信	1. 突発公共衛生事件の応急報告制度と報告状況
		2. 突発公共衛生事件の情報発信
	四、突発公共衛生事件への応急対応	1. 応急対応計画の発動
		2. 応急対応計画の実施
	五、「突発公共衛生事件応急条例」に規定される法的責任	1. 医療機関が「突発公共衛生事件応急条例」の規定に違反した場合に追及されるべき法的責任
	2. 突発事件への対応中に関連する部門および個人が職責を履行しなかった場合に負うべき法的責任	
		3. 突発事件の発生期間中に公の秩序を乱した場合に追及されるべき法的責任
第七単元 「医療紛争予防および処理条例」	一、概要	1. 医療紛争の概念
		2. 医療紛争の処理原則
		3. 医療紛争への共同対応における部門責任
	二、医療紛争の予防	1. 医療紛争予防の原則
		2. 医療機関の職責
		3. 医療従事者の責任
		4. 患者の権利と義務
	三、医療紛争の処理	1. 医療紛争の処理経路
		2. 医療紛争における患者の権利
		3. 診療録情報、現場物品などの封印保存と処理
		4. 医療紛争の人民調停
		5. 医療被害の鑑定
		6. 医療紛争の行政調停
四、法的責任	1. 医療機関の法的責任	
	2. 医療従事者の法的責任	
	3. 鑑定機関、剖検機関の法的責任	
	4. 医療紛争人民調停担当者の法的責任	
	5. 衛生行政機関および職員の法的責任	
第八単元 「中華人民共和国中医薬法」	一、概要	1. 「中医薬法」の制定目的、適用範囲
		2. 中医薬事業の発展の原則、方針
	二、中医薬サービス	1. 中医薬サービスの体系および能力開発
		2. 中医学診療所、中医学医師の参入管理制度
		3. 中医薬サービスの特色の保持
		4. 政策による中医薬サービスの支援、保障
		5. 中医学の医療広告管理
6. 中医薬サービスの監督		

単元	細目	要点
第八単元 「中華人民共和国 中薬法」	三、漢方薬の保護と発展	1. 漢方薬材品質管理制度
		2. 漢方薬飲片（刻み生薬）管理制度
		3. 漢方製剤発展促進管理制度
	四、漢方薬に関する人材育成 と科学研究、漢方薬の伝承と 文化の伝播	1. 学歴教育制度の整備
		2. 人材育成の指向性の強化
		3. 漢方薬の伝承教育の奨励
		4. 漢方薬の科学研究の奨励
		5. 漢方薬の伝承
		6. 漢方薬文化の伝播
	五、保障措置と法的責任	1. 漢方薬事業発展の政策による支援と条件保障
		2. 漢方薬の標準体系の規定
		3. 漢方薬管轄行政部門の法的責任
		4. 漢方薬医療機関の法的責任
		5. 中医学医師（試験合格者）の法的責任
	第九単元 「医療機関従業人 員行為規範」	医療機関従業人員行為規範
2. 医療機関従業員の基本的行動規範		
3. 管理者の行動規範		
4. 医師の行動規範		
5. 看護師の行動規範		
6. 医療技術者の行動規範		
7. 薬学技術者の行動規範		
8. その他の人員の行動規範		
9. 実施と監督		
第十単元 「中華人民共和国基 本医療衛生と健康促進法」	一、概要	1. 「基本医療衛生と健康促進法」の立法目的、 適用範囲
		2. 医療衛生と健康事業の発展の原則、方針
		3. 公民の健康権の尊重、保護
	二、基本的な医療衛生サービス	1. 基本的な医療衛生サービスの意味および構成
		2. 基本的な公共衛生サービスの関連管理制度
		3. 基本的な医療サービスの関連管理制度
		4. 公民が医療衛生サービスを受ける際の権利と義務

単元	細目	要点
第十単元 「中華人民共和国 基本医療衛生と健康促進法」	三、医療衛生機関	1. 医療衛生サービスの体系
		2. 各種医療機関が提供する主なサービス
		3. 医療機関開設の条件
		4. 医療衛生機関の分類管理
		5. 医療衛生技術の臨床応用の分類管理
		6. 突発事件発生時における医療衛生機関および職員の管理
	四、医療衛生担当者	1. 医療衛生担当者の育成規則
		2. 医療衛生担当者の従業活動管理
		3. 医療衛生担当者の人事、賃金、賞与制度
		4. 医療衛生担当者が定期的に末端組織および苦難に満ちた遠隔地域へ出向し医療衛生業務に従事することを定めた業務制度
		5. 医療衛生担当者の従業環境の保障
	五、医薬品供給の保障	1. 国の基本的な医薬品制度
		2. 医薬品トレース制度および需給モニタリング体系
	六、健康促進	健康知識の周知および普及
	七、資金保障、監督管理と法的責任	1. 医療衛生と健康事業の発展のための資金保障
		2. 医療保障体系
		3. 医療衛生の総合的な監督管理体系
		4. 医療衛生機関の法的責任
		5. 医療衛生担当者の法的責任

発行日：2024年3月29日

厚生労働省 医政局医事課 試験免許室 御中

翻訳証明書

技術翻訳株式会社は、当該言語の翻訳に必要な言語知識、能力、経験を有する翻訳者により、以下の文書を正確に翻訳いたしました。

ここに翻訳内容と原文に相違のないことを証明いたします。

翻訳言語： 中国語（簡体字）→日本語
翻訳対象文書： 中医执业医师资格考试大纲.pdf

技術翻訳株式会社
東京都中央区新川 2-1-3
COSMY 新川 3 階
TEL: 03-6264-1076
FAX : 03-6264-2076
代表取締役 烏田 倫宏

